

**Beyond Limits. Unlock Our Potential.
To the Next Stage.**

**第 2 期スタートアップ・エコシステム拠点形成計画
(既存拠点都市用)**

コンソーシアム等の名称：スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム

I. 全体ビジョン

1. 広域ネットワーク型としての東京圏のエコシステムの今後5年間の方向性

現在地（第1期の到達点）

✓ エコシステムの充実

- 投資家や大企業、大学などスタートアップ支援を担う様々なプレイヤーが増加し、多様な領域で支援者のネットワークが形成



- スタートアップやその支援者が交流する場として、産官学の様々な主体により、イノベーション拠点の整備が進展



✓ グローバル化に向けた取組の推進

- 海外展示会等への派遣プログラムやグローバルスタートアップイベントなどにより、海外とのコンタクトポイントを構築

グローバルに訴求できる東京圏の強み

Economy

Fortune500企業本社数
第2位
(29社)

*東京データ(2023)

Academia

QS大学ランキング掲載大学数
第3位
(5大学)

*東京の500位以内大学数(2025)

Innovation

国際特許出願数
第1位
(10.5%)

*東京・横浜の合計出願数割合(2019-2023年)

Culture

ミシュラン星付掲載店数
第1位
(183店)

*東京データ(2023-2024年)

今後の方向性

✓ グローバルとのつながりのさらなる強化

- 世界のエコシステムプレイヤーやイノベーション拠点と東京圏ひいては全国のスタートアップとプレイヤーを繋ぐオープンなプラットフォームづくりを強化するとともに、海外プレイヤーの呼び込みや、スタートアップがグローバルに成長する環境の整備を推進

✓ 多彩なプレイヤーの集積を活かした取組の展開

- スタートアップのファーストカスタマーとして東京圏で官民協働をさらに推進するとともに、大企業、大学等とスタートアップのオープンイノベーションを加速していく。取組をさらに効果的に進めるため、エリア・領域を超えた連携や全国との協働を展開

✓ オールジャパンのエコシステムに向けた広域的な連携の強化

- 日本のエコシステムのプレゼンス向上にむけ、東京圏だけでなく、全国のプレイヤーと連携し、オールジャパンで取組を推進

✓ 失敗を恐れずに挑戦するマインドの醸成

- 社会全体で、世界を目指す若者の果敢な挑戦を支えるとともに、社会の中で活躍する様々な挑戦者を応援

<来期の東京コンソーシアムの活動>

- 多様なプレイヤーのより広汎な巻き込みを図るとともに、エコシステムとしての活動の見える化を推進
- 世界のエコシステムから東京圏へのアクセスを容易にするため、グローバルへの情報発信を強化
- 全国のエコシステムと連携してオールジャパンで取り組んでいく

I. 全体ビジョン

2. KPI (2025-2030)

グローバルでの プレゼンスの向上

2030

GSER*
5位以内

2028

8位以内

ユニコーン
15社/年 創出

15社/年 創出

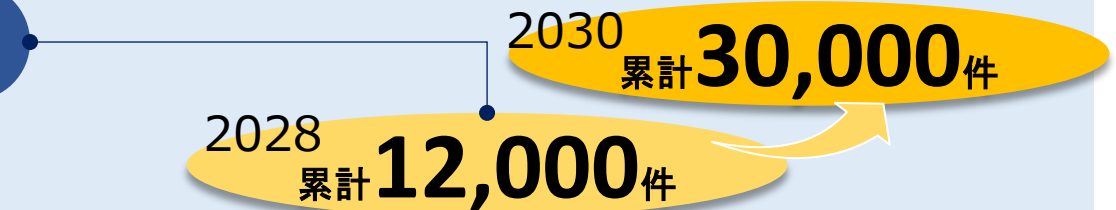
SusHi Tech Tokyo
海外来場者割合
3分の1以上

4分の1以上

*Global Startup Ecosystem Report; Startup Genome社 (米国)

グローバルとの接続

- ・ 海外グローバルイベントへのスタートアップ出展・参加件数
- ・ 海外でのスタートアップの商談件数
- ・ 東京圏で開催されるグローバルイベントでの海外出展件数
- ・ 東京圏で開催されるグローバルイベントでのマッチング数
- ・ 海外VC等からの投資件数
- ・ グローバルアクセラレータープログラムの採択件数
- ・ スタートアップの海外現地法人数 (期間増加分)
- ・ 企業誘致数 (期間増加分)
- ・ 海外投資家の日本法人数 (期間増加分)



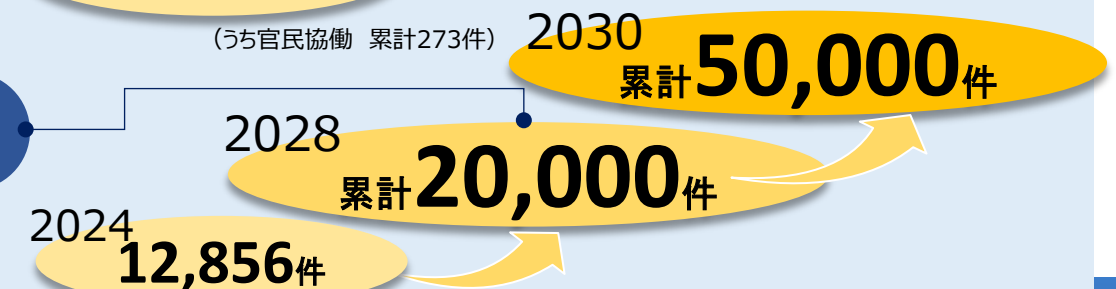
スタートアップと多様な主体との コラボレーションの創出

- ・ スタートアップと行政機関との協働・調達件数
- ・ スタートアップと事業会社等との協働・調達件数



エコシステムの基盤に携わるプレイヤーの 巻き込み

- ・アントレプレナーシップ育成プログラム、講座等への参加数
- ・東京コンソーシアム新規参加数
- ・大学発スタートアップ創出数 (期間増加分)



Ⅱ. 世界とシームレスに繋がる

1. 実績と目標

これまでの経過－グローバルとのつながり構築

- ✓ 海外展示会への派遣等、スタートアップがグローバルを経験・体感する取組等を積極的に展開
- ✓ グローバルとの接続を意識して、SusHi Tech TokyoやTIBのようなオープン・プラットフォームを構築・始動
- ✓ 海外都市・機関とのMoUの締結など、グローバルとのつながりを拡充

海外展開等プログラム

2020	2021	2022	2023	2024
62社	61社	74社	86社	91社

東京都事業の場合

グローバルイベントの開催実績－参加人数（海外来場者比率）－

City-Tech.Tokyo (2023)	SusHi Tech Tokyo 2024
26,746人 (23%)	40,206人 (24%)

海外都市・機関とのMoUの締結事例

都市・機関	締結年	概要
つくば市×ルクセンブルク	2022	宇宙分野に強みを持つ支援機関との連携により、宇宙分野をはじめとするスタートアップの成長支援を推進
東京都×Startup Island TAIWAN	2024	東京と台湾におけるスタートアップエコシステムの推進やスタートアップ支援等に関する相互連携の実施
東京都×ニューヨーク市経済開発公社 (NYEDC)	2024	東京都とNYEDCがより緊密なパートナーとして、ビジネスとイノベーションの強力なグローバルハブとして発展するよう情報共有を始めとした連携関係を深化

<今後の目標>

5年間の目指す姿

グローバルとの接続の拡大	海外展示会出展等に止まらず、日常からグローバルとの接点を積極的に持つ	東京圏だけではなく全国のエコシステムプレイヤーがグローバルにつながることでできるオープンプラットフォームを構築・強化し、東京圏のエコシステムのグローバル化を実現
ポーン・グローバルのさらなる加速	始まりからグローバルを見据えるため、グローバルクラスのVC・アクセラからの投資等を促進	グローバルクラスのVCからの投資や、アクセラレータープログラムへの採択等をきっかけに、始まりからグローバル市場に挑戦するスタートアップが次々と生まれてくる環境を整備
グローバルに訴求できる実績づくり	ユニコーンの早期創出などグローバルの関心を引き寄せる実績づくりに取り組む	グロース期のスタートアップなどがグローバルでの着実な成長を遂げていけるような仕組みが構築され、東京圏のエコシステムとしてのプレゼンスが高まることで世界中から人材・資金等を引き寄せられるようにする

- ✓ KPIについてはP3参照

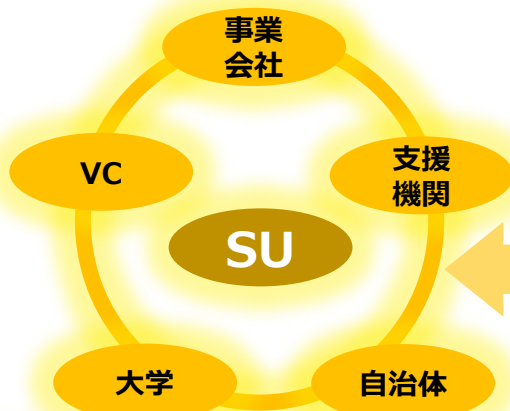
Ⅱ. 世界とシームレスに繋がる

2. 取組の方向性

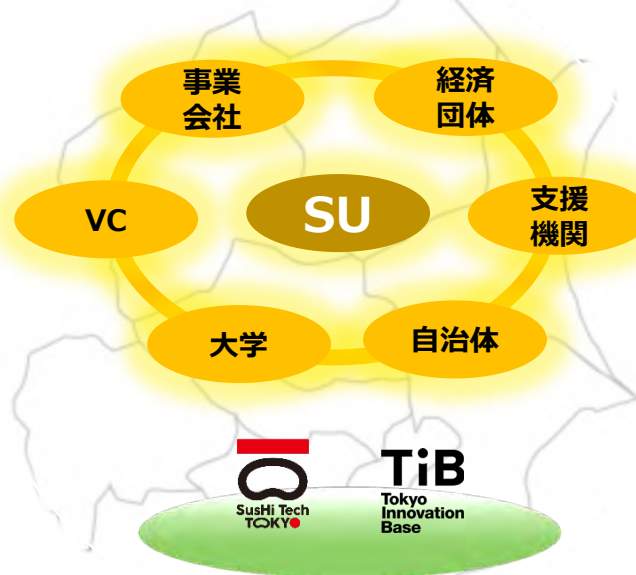
様々なプレイヤーが集うオープン・プラットフォームを活用したグローバルとの接続

- ✓ プレイヤー同士が個別につながるのではなく、様々なプレイヤーと出会うことのできるオープンなプラットフォームを構築することにより、東京圏、全国のエコシステムプレイヤー同士の交流連携を活性化させ、さらにはグローバルとの接続を図っていく
- ✓ 特に東京圏では、毎年5月に開催されるアジア最大級のグローバル・スタートアップ・カンファレンス“SusHi Tech Tokyo”と国内外の様々なプレイヤーが日々集い、交流する“Tokyo Innovation Base (TIB)”などのプラットフォームを積極的に活用
- ✓ Viva TechやCESなどの国際展示会への積極的な参加により、東京圏のエコシステムの魅力を発信

全国のエコシステムと

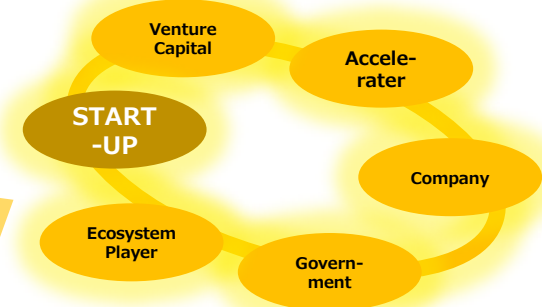


東京圏エコシステム



様々なプレイヤーをつなぐ
オープン・プラットフォームの活用

グローバルプレイヤーと



世界の拠点と



Ⅱ. 世界とシームレスに繋がる

ボーングローバルのさらなる推進

グローバルプレイヤーのネットワークを活用

- ✓ グローバルクラスのVCやアクセラレーターの誘致を進め、そのグローバルなネットワークと東京圏及び日本のスタートアップを接続
- ✓ 特に初期段階からグローバルを見据え、グローバル視点でビジネス構築を進める“ボーングローバル”なスタートアップを輩出していくため、グローバルクラスのアクセラプログラム等を誘致、展開。東京のみならず全国、さらに世界から挑戦者を呼び込み、成長を後押し
- ✓ 世界各地に拠点を有し、幅広いネットワークを有する独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）や民間事業者等と連携しながら、着実にボーングローバルを推進していく

過去の誘致実績

techstars
Tokyo

 **ALCHEMIST ACCELERATOR**

500

グローバルな成功事例の創出・発信

事業会社等によるグローバルなスタートアップ協働の推進

- ✓ 事業会社等の集積という東京圏の強みを活かして、スタートアップとの協働に意欲的な事業会社等とスタートアップとの協働事例を積み重ねていく
- ✓ 協働成果をグローバルに発信・展開するとともに、グローバルからスタートアップや投資家等を引き寄せる



グロース期を中心にスタートアップのグローバルな成長を後押し

- ✓ 先端的なテクノロジーで社会の変革をもたらす実力あるスタートアップ（主にグロース期）を集め、グローバルでの飛躍に向けた集中支援を実施
- ✓ グローバルで戦うためのマインドセットやネットワーク、体制づくりを支援
- ✓ 特に成長性の高いスタートアップには、成長に必要な資金的サポートを含め、官民でグローバルな成長を強力に後押ししていく

Ⅲ. スタートアップの成長を支援する

1. 実績と目標

これまでの経過①－官民協働・公共調達の推進

- ✓ 行政現場の課題をスタートアップの独創的なアイデアとプロダクトで解決する協働プロジェクトを推進
- ✓ 優れたプロダクトについて、地方自治法上の「政策目的随意契約」の制度を活用して、積極的に導入
- ✓ 一部の入札案件につき資格要件を緩和し、スタートアップの参入が容易になる制度を創設

都バスの乗降データの取得



計量展示室の体験コンテンツの検討



行政との協働実績

2020・2021	2022	2023	2024
4 件	9 件	153件	186件

東京都事業の場合

これまでの経過②－大企業等とスタートアップの協働促進

- ✓ 大企業や中堅・中小企業等とスタートアップとのオープンイノベーション（OI）が進むよう、リバースピッチの場の整備等の取組を実施
- ✓ 大企業等の持つフィールドを活用して、スタートアップの実証・協業を行う取組等を推進し、大企業等との協業実績をてこにしたスタートアップの成長につなげてきた

スマート養殖魚×スーパー



ロボット×鉄道（駅そば）



自動配送×コンビニ



大企業等との協働実績

2020	2021	2022	2023	2024
14件	12件	12件	8件	12件

東京都事業の場合

<今後の目標>

5年間の目指す姿

官民協働・公共調達の推進

自治体での官民協働をさらに進めるとともに、広域連携による公共調達の促進を図る

- 現場の困りごとなどの行政課題の解決だけではなく、政策立案からスタートアップの力を活用する等官民協働をより深化させていくとともに、広域連携によるスタートアップからの公共調達を推進

大企業等との協働促進

東京圏における大企業等の集積を活かした枠組みの構築と運用を実施

- 東京圏に集積する大企業や中堅・中小企業、大学、研究機関などが強みを活かせる領域で、クラスター形成を支援（18件）。各クラスターにおけるスタートアップとのOIを20件以上創出

Ⅲ. スタートアップの成長を支援する

2. 取組の方向性

広域連携と多彩なプレイヤーの集積を活かした協働の促進とスタートアップの成長

官民協働の さらなる推進



各自治体での 取組強化

- 自治体の公共調達等を活用し、スタートアップの事業機会を拡充
- 行政×スタートアップの協働による新規事業の創出を支援
- スタートアップからの事業提案制度の創設・拡充等により、公共調達だけではなく政策立案過程にもスタートアップの力を活用

広域連携による 協働の促進

- スタートアップの機会拡大のため、自治体間で公共調達の取組の輪を拡大し制度連携を促進（SUのプロダクト認定や公共調達情報の共有・連携等）

多様な主体 の連携促進



多様なプレイヤー の巻き込み強化

- 様々な領域で大企業等とスタートアップとの協働が進むよう呼び水となる枠組み（協働に対するインセンティブの付与等）の構築と拡充を実施

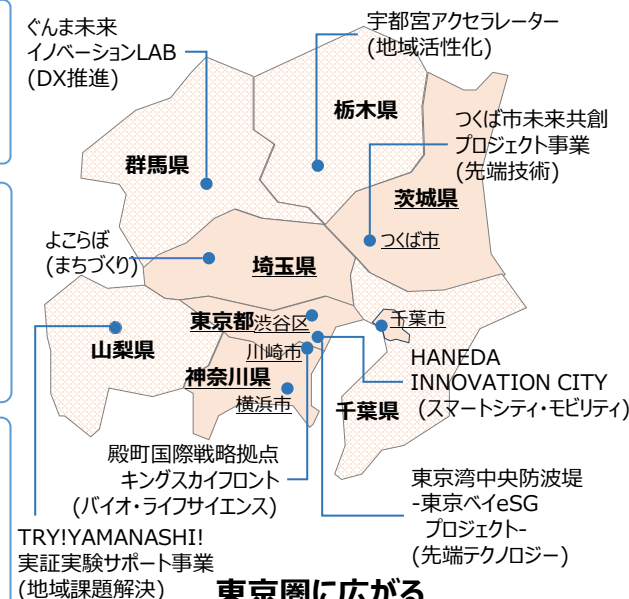
地域間連携の 強化

- 東京圏内外のVC・大企業・金融機関とのマッチングを強化し、投資・事業化を促進

例：つくば市では、研究機関・大学と連携した技術シーズを活用したスタートアップ支援や、民間支援機関と連携した事業化支援を推進

社会実装に 向けた フィールドの 積極活用

- 東京圏に広がる様々な主体によるイノベーションフィールドの活用を促進
- スタートアップの業種・課題に応じ、実証の好適地を紹介



東京圏に広がる
多彩なイノベーション・フィールド

* 下線は広域連携自治体

Ⅳ. エコシステム形成の土台を作る

1. アントレプレナーシップ教育等を通じた人材育成

(1) 実績と目標

<主な主体>		小中学生	高校生	大学生・高専生	大学院生以降
自治体		<ul style="list-style-type: none"> 小中学校向け起業家教育推進事業（起業体験） R5年度 導入支援者816名 	<ul style="list-style-type: none"> 起業スタートダッシュ（起業プログラム・コミュニティ） 延べ受講者数46名 TIB Students 延べ受講者数3,000名（出前授業・きっかけ作り） 	<ul style="list-style-type: none"> SusHi Tech Tokyo（ITAMAE） R6年度参加者16名 TIB JAM（プログラム・コミュニティ） ・つくばアントレプレナー育成プログラム BizDev講座 R6年度受講者37名 	<ul style="list-style-type: none"> GEMStartup TOKYO R2年度～各20社程度 TOKYO Re;STARTER R2年度～各20者程度
		TOKYO STARTUP GATEWAY（R6年応募総数3,317件から選ばれた10名の起業家の卵がピッチを実施） R6年度応募総数 3,317件			
大学・民間		EDGE-PRIME Initiative<GTIE>		プログラム・コミュニティ<GTIE>	GAPファンド・基金事業<GTIE>
		<主な実績> ・<東京大学>アントレプレナー道場:R6年度道場登録者数397名 ・<早稲田大学> WASEDA-EDGE人材育成プログラム:5,000人/年の受講者 ・<筑波大学>次世代起業家育成講座:R6年度受講生88名 ・<横浜国立大学>起業家養成講座シリーズ:第8回時点で延べ参加者数167名 ・<神奈川県立保健福祉大学>アントレプレナーワークショップ:R6年度参加者数319名 ・<千葉大学>小中高生向けアントレプレナープログラム:R6年度受講生3,296名		アントレプレナープログラム<大学>	
				起業家講演会<東商>	Swing-By<三井不動産>

<今後の目標>

5年間の目指す姿

起業家を身近に感じる取組の強化	体系的なアントレ教育を充実させ、企業・SU・自治体と連携し、実践の体験機会を拡大	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場で起業家と触れ合う機会を設けるなど実践的なアントレプレナーシップ教育をさらに普及させていくとともに、地域の様々なプレイヤーと連携し、挑戦することの楽しさを体験する機会を積極的に増やしていく
多様な挑戦者を応援	社会で活躍する様々な属性の人々の挑戦をサポート	<ul style="list-style-type: none"> 学生・若者はもとより、大企業人材・リスタート起業家・事業継承者など多様な挑戦者を支援し、失敗を恐れず挑戦していくことの気運を高めていく
グローバルに活躍する挑戦者の応援	若者のグローバルな挑戦を支援	<ul style="list-style-type: none"> 若いころから海外を意識し、世界に羽ばたいていけるよう、海外留学などグローバルな交流の機会を積極的に提供していく

Ⅳ. エコシステム形成の土台を作る

(2) 取組の方向性

起業家を
身近に感じる
取組強化



子どもの頃からのアントレプレナーシップの醸成

- ✓ 小中高校生に向けて提供している各種プログラムについて、ニーズを捉えながら拡充、産官学金の多様なプレーヤーを巻き込んだ支援を実施
 - スタートアップや企業と連携して起業家を学校等に派遣
 - 大学連携によるプログラム等を拡充
 - 地域と連携したイベントを開催等

学生・研究者に対する挑戦の後押し

- ✓ 学生自身がアイデアの実現に向けて主体的に行動し、切磋琢磨しながら成長する場の提供
- ✓ 大学におけるアントレプレナーシップ教育のカリキュラム、体制整備や研究シーズの事業化支援の展開
- ✓ 成功事例/失敗事例のナレッジやノウハウの蓄積・共有
 - 大学間での連携や事例共有の場を拡大等

多様な
挑戦者の
応援



起業家の再チャレンジ

- ✓ 起業経験者のセカンドキャリアや再チャレンジの支援機会を拡充
 - コミュニティ機能を拡充
 - 再チャレンジ等に向けた環境を整備等

大企業からの挑戦

- ✓ 大企業人材の創業・事業化に向けた支援を拡充
 - 事業アイデアの具体化支援プログラム
 - 大学等と連携したアントレプレナーシップ醸成支援等

中小企業からの挑戦

- ✓ 中小企業へのアントレプレナーシップ醸成支援を拡充
- ✓ 事業承継等を経てスタートアップ創業を目指す事業者への支援を拡大等

グローバル
に活躍する
挑戦者の
応援



海外エコシステムと挑戦者をつなぐ

- ✓ 海外に挑戦する人材と海外エコシステムをつなぐハブとしての機能を拡充
 - 海外留学等へ挑戦する学生・若者への支援
 - TIB JamやSusHi Tech Tokyoと連携した海外エコシステムとの連携等

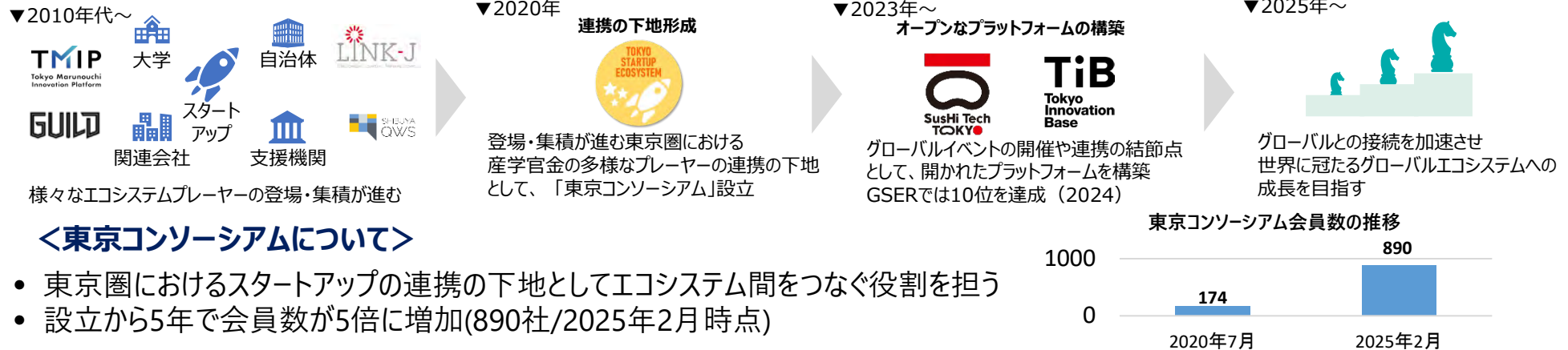


Ⅳ. エコシステム形成の土台を作る

2. エコシステムを支える人材・組織の確保

(1) これまでの経過

東京圏のエコシステムが着実に成長



(2) 東京コンソ・自治体の方針

5年間の目指す姿

包摂性	広域ネットワーク指向のエコシステムとして、東京圏のプレイヤーのより広汎な巻き込みを図る	<ul style="list-style-type: none"> より多くの東京圏のエコシステムプレイヤーから参画を得て、その存在・活動を網羅的に把握することのできる場とする
見える化の推進	人材や投資を世界から惹きつける東京圏の魅力・強みや、エコシステムプレイヤーの取組などを、英語による発信を含め国内外へより分かりやすく情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 多様なプレイヤーによるエコシステム活動の全体像を可視化 どこでどのような活動が行われているか、誰にアクセスすればよいかが容易に分かるような環境を整備
広域連携の強化	TiB等のオープンなプラットフォームを活用しながら東京圏・全国のエコシステムとの連携を強化	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏だけではなく全国のエコシステムと連携しながら、スタートアップの輩出と成長を活性化させ、世界に冠たるスタートアップエコシステムを日本に構築していく

＜各自治体の戦略・方針＞

茨城県

県総合計画における4つのチャレンジのうち、「新しい豊かさ」へのチャレンジでは新産業育成と中小企業等の成長を掲げ、「新しい夢・希望」へのチャレンジでは「茨城シリコンバレー構想」を打ち出し、世界に挑戦するベンチャー企業の創出支援や若者の起業家教育などの取組を通じ、世界に飛躍する茨城を目指している。

つくば市

2018年12月につくば市スタートアップ戦略、2023年2月に第2期戦略を策定し、「起業文化の醸成により、人の成長と科学技術が社会に生かされるまち」をビジョンに掲げ、戦略的にスタートアップ支援に取組中。現市長第3期公約の一つとして、「社会にインパクトをもたらすスタートアップ企業への支援推進」を掲げ、強みである研究開発型スタートアップの中でも、インパクト・スタートアップの支援を推進。

埼玉県

約500もの企業の創出に携わった埼玉県出身の偉人である渋沢栄一翁が、適切な人や企業をマッチングすることで企業を成長に導いたことに倣い、人々が出会い、つながり、共創することで新たなイノベーションが創出される場を目指し、さいたま新都心にイノベーション創出拠点「渋谷MIX」を2025年7月25日にオープン。本施設では「オープンイノベーションの創出・促進」「スタートアップの創出・成長支援」「イノベーションを担う人材の育成」の3つをコンセプトに、イノベーション創出のための様々な取組を展開。

千葉市

基本計画において「都市機能の集積を生かした地域経済・社会の活性化」を戦略的視点として掲げ、地域経済の新たな担い手の輩出やイノベーションの創出を促す取組を推進。上記計画に係る実施計画（下記URL参照）に、アクセラレーションプログラムの拡充等の具体的施策を掲げている。
<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/soukoukeikaku/kihonkeikaku-dai1jijissikeikaku.html>

東京都

スタートアップ戦略“Global Innovation with Startups”を策定（2022年11月）
<https://www.startupandglobalfinancialcity.metro.tokyo.lg.jp/startup/strategy>
新たな長期戦略「2050東京戦略～東京もともとなる」案を公表（2025年1月）
<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/2050-tokyo>

渋谷区

2020年に「渋谷区産業・観光ビジョン」を策定。2029年までの計画期間における、産業・観光の活性化による国際都市の実現を目指し、地域性を活かしたスタートアップ・エコシステム構築に取り組み。
戦略の詳細は、以下に掲載
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/shisaku/shibuyaku-sangyo-plan/sangyokanko_vision.html

神奈川県

ベンチャー支援のながわモデル「HATSU-SHIN KANAGAWA」により、社会課題の解決をビジネスとして取組、成長するベンチャー企業を創出・育成。

横浜市

横浜市中期計画2022～2025において、「スタートアップの創出・イノベーションの推進」を掲げ、スタートアップの創出と成長支援に取り組む。
2024年11月、テック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」を開設。横浜を世界に挑戦するテック系スタートアップの集積地へと発展させるため、多様な企業・団体とのさらなる連携に向けた方策を市長から発信。

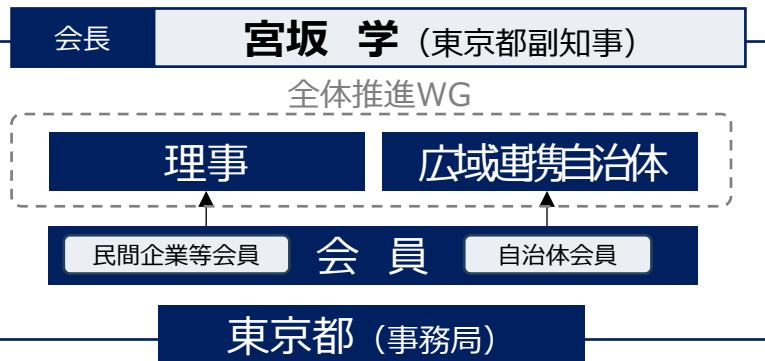
川崎市

キングスライフフロントにおけるライフサイエンス関連の新産業を創出する体制構築の推進とグローバル展開を目指した起業家成長支援。K-NICにおける起業家への総合的支援やアクセラレーションプログラムによる伴走支援、新川崎や殿町地区におけるインキュベーション支援等、事業者のフェーズに応じた支援を継続。新川崎地区の機能更新や臨海部の大規模土地利用転換、イノベーション・エコシステム形成に向けた拠点間の連携促進の取組。

Ⅳ. エコシステム形成の土台を作る

(3) 東京コンソーシアムの推進体制 -2025.2.28時点-

推進体制

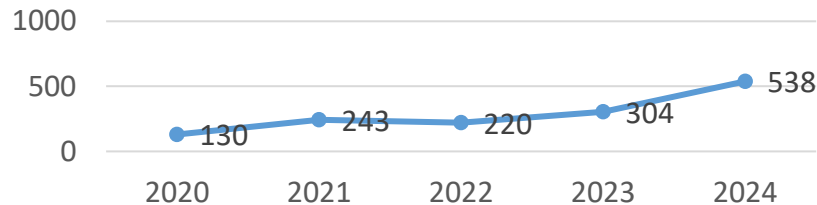


主な推進メンバー

- 民間事業者（東急、東急不動産、三井不動産、三菱地所、森ビルなど）
- 団体等（経団連、経済同友会、新経連、東商、日本VC協会、JETRO、東京証券取引所など）
- 大学（東京大学、慶應義塾大学、早稲田大学など）
- VC、スタートアップ、法律事務所など
※太字下線は理事
- 広域連携自治体（茨城県、つくば市、埼玉県、千葉県、渋谷区、神奈川県、横浜市、川崎市）ほか自治体会員 ※太字下線は第2期から加入
- 東京都（事務局）

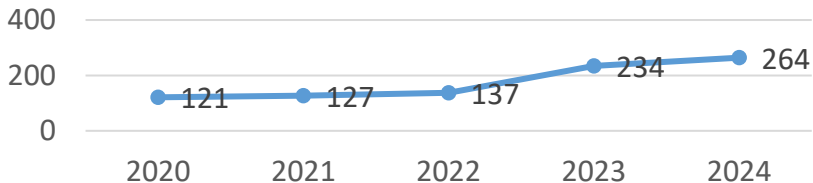
自治体のスタートアップ予算と人員体制

● 予算 (単位: 億円)



➤ 今後も所要の予算確保を図っていく (Ex.東京都では、2023年からの5年間でスタートアップ予算を10億ドル確保すると知事が表明)

● 人員 (単位: 人)



➤ 今後もさらなる体制強化を図っていく (Ex.東京都では、2025年4月にスタートアップ特化部門「スタートアップ戦略推進本部」を新設)

✓ 予算と人員は広域連携自治体（茨城県、つくば市、埼玉県、千葉県、渋谷区、神奈川県、横浜市、川崎市）及び東京都の合計

東京圏に広がる官民のイノベーション拠点・組織



**Beyond Limits. Unlock Our Potential.
To the Next Stage.**

**第2期スタートアップ・エコシステム拠点形成計画
(既存拠点都市用)**

Appendix

コンソーシアム等の名称：スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム

(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
SU 8人 宇宙 5人 13人	8人 5人 13人	8人 5人 13人	8人 5人 13人	7人 4人 11人

<主な組織>

- 産業戦略部技術振興局技術革新課
- 産業戦略部技術振興局科学技術振興課

<今後>

- 産業戦略部技術振興局技術革新課
- 産業戦略部技術振興局科学技術振興課

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
SU2.45億円 宇宙1.45億 3.90億円	1.98億円 宇宙0.88億 2.86億円	1.94億円 宇宙0.82億 2.76億円	1.82億円 宇宙0.64億 2.46億円	1.81億円 宇宙0.47億 2.28億円

<今後>

引き続き、スタートアップ支援に注力

ウ 方針

茨城県では、筑波大学や産総研をはじめ29の国の研究機関と約2万人の研究者が集積する我が国最大の知の拠点をつくば市に形成しており、スタートアップのシーズの宝庫であるため、こうした大学や

研究機関から生み出される技術シーズの可能性を最大化し、産業にまで育てていくための仕組みを県全体で創り上げていく必要がある。そのため、県総合計画における4つのチャレンジのうち、「新しい豊かさ」へのチャレンジでは新産業育成と中小企業等の成長を掲げ、「新しい夢・希望」へのチャレンジでは「茨城シリコンバレー構想」を打ち出し、世界に挑戦するベンチャー企業の創出支援や若者の起業家教育などの取組を通じ、世界に飛躍する茨城を目指している。

これまで本県では、つくば市と連携し、スタートアップ拠点としての機能の充実を図ってきており、引き続き役割分担をしながら、スタートアップ・エコシステム拠点都市の形成に取り組んでいく。

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ ニューヨークで最大級のアクセラレーターであるERAとMOUを締結し、同社との連携により、海外アクセラレーションプログラムを開催（これまで25社が参加）
- ✓ スタートアップビザの認定及び推進（これまで3件を認定）

●ベンチャー企業海外展開支援事業

海外市場での資金調達や販路拡大を目指すベンチャー企業を支援するため、海外アクセラレーター（ERA）と連携しアクセラレーションプログラムを実施

●スタートアップVISAの認定及び推進

茨城県第1号認定（2020.9）第2号認定（2021.2）
第3号認定（2023.5）

●外資系企業の誘致

- ・エスティローダー（アメリカ、2020）が下妻市に拠点設置
- ・キャップジェミニ（フランス、2023）がつくば市に拠点設置



イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ベンチャー企業創業・事業化支援を通し、大学や研究機関等が持つ先端的な技術シーズを発掘・ブラッシュアップし、事業化（これまで19件が創業）
- ✓今後成長が見込まれる、ディープテック分野の有望なベンチャー企業への集中的なアクセラレーションプログラムを実施（これまで18社が参加）

- ✓いばらき宇宙ビジネス創造拠点プロジェクトを立上げ、宇宙ベンチャー等の創出・誘致と県内企業の宇宙ビジネスへの新規参入を促進

●ベンチャー企業創業・事業化支援事業

大学や研究機関等が持つ先端的な技術シーズを発掘・ブラッシュアップして事業構想化し、金融機関、ベンチャーキャピタルや県内外企業とのマッチング等、事業化に向けた伴走支援を実施

●ベンチャー企業成長促進事業

株式上場などのエグジットを見据えたベンチャー企業の創出に向け、今後、成長が見込める有望な企業について、販路開拓や資金調達に向けた集中支援を実施

●いばらき宇宙ビジネス創造拠点事業

宇宙ビジネスの相談にワンストップで対応する常設支援拠点の設置のほか、宇宙関連展示会への出展や、新製品開発・販路開拓等へ財政支援（補助）を実施



ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの発足
- ✓ 交流プログラム「TSUKUBA CONNECT」の開催（2025.1 現在 ※計71回開催、10,124人参加）

●つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムの発足

茨城県、つくば市の共同により、「つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム」を発足（2020.2）し、ディープテック・スタートアップの世界的拠点都市の実現を目指す

●TSUKUBA CONNECTの開催

起業家や投資家、研究者など多様な人材が集うセミナーやピッチ等のイベントを定期的を開催し、つくばを中心にスタートアップの世界的な拠点形成を図る



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
7人	7人	6人	7人	7人

<主な組織>

- 政策イノベーション部スタートアップ推進室
- 政策イノベーション部科学技術戦略課
- 経済部産業振興課（創業支援担当）

<今後>

- スタートアップ推進室を中心としてスタートアップ支援を継続

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
7,645万円	19,515万円	8,053万円	7,559万円	8,093万円

<今後>

- 2025年度の予算要求額：8,711万円

ウ 方針

- 2018年12月につくば市スタートアップ戦略、2023年2月に第2期戦略を策定し、「起業文化の醸成により、人の成長と科学技術が社会に生かされるまち」をビジョンに掲げ、戦略的にスタートアップ支援に取り組中。
- 現市長第3期公約の一つとして、「社会にインパクトをもたらすスタートアップ企業への支援推進」を掲げ、強みである研究開発型スタートアップの中でも、インパクト・スタートアップの支援を推進。

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 国内外問わずスタートアップに関わる多様な人々が集まり交流するスタートアップ推進拠点「つくばスタートアップパーク」を運営（開設から5年間の来場者数約45,380人・創業数76人）
- ✓ ルクセンブルクやシンガポールにおけるスタートアップ・エコシステムの主要プレイヤーと連携し、JETRO茨城と共同で現地でのアクセラレーションプログラム等を展開（2023年度：3社、2024年度：5社）
- ✓ 国家戦略特区や経産省の制度を活用してスタートアップビザ制度を拡充・運営し、外国人が起業しやすい環境を整備（制度活用から茨城県で3件認定・うち2件つくば市で起業済み）

● つくばスタートアップパーク

- 大学や研究機関が集積するつくば市の強みを活かし、テクノロジー系スタートアップ支援を核とした多様な起業ステージに対応するインキュベーション施設であり、国内外のスタートアップ関係者の交流拠点
- 毎週水曜日開催のイベントやオフィス環境の提供に加え、国家戦略特区制度を活用した「開業ワンストップセンター」や「外国人雇用相談センター」を開設し、全面的に起業や交流を促進



● Global Acceleration Program in cooperation with LUXINNOVATION

- 宇宙資源開発や金融で世界をリードする欧州ルクセンブルクの政府系支援機関「LUXINNOVATION」とスタートアップ相互支援に関するMoCを締結（2022年12月）。グローバル拠点都市東京向けの予算を使い、JETRO茨城と連携し、ルクセンブルク発スタートアップの招へい事業、東京コンソ内スタートアップ向けのルクセンブルクでのアクセラレーションプログラムを実施
- 2024年6月にはギョーム皇太子殿下の経済使節団がつくばスタートアップパークを訪問し、双方のスタートアップが交流を深めるなど、スタートアップ支援での関係性を深めている
- 関連して、2024年10月にはシンガポールで日系企業向けの「共創型」のコミュニティプラットフォームを運営するJSIPとスタートアップ推進に関する連携協定を締結



● スタートアップビザ制度の拡充・運営

- スーパーシティ型国家戦略特区と経産省の制度を連動させて活用し、起業を目指す外国人が在留資格「特定活動（起業準備活動）」で最長1年半の在留が可能に
- 大学や国研等の学術機関との連携を視野に入れた外国人の起業環境を整備
- これまで3件を認定（認定事業は経産省制度で主体は茨城県）し、うち2件はつくば市で起業

イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ つくば市をフィールドとした実証実験を全面サポートし、市の課題解決とスタートアップ等の革新的技術・アイデアの社会実装を推進（2024年度：4社採択（うちスタートアップ3社））
- ✓ 市内スタートアップ支援機関や国等のスタートアップ支援施策を一元的に情報発信するウェブサイトを構築（2025年3月上旬公開予定）
- ✓ 成長段階に応じたインフラ環境の確保や試作品製作をつうじた社会実装を推進するため、各種補助金を展開

● つくばスマートシティ社会実装トライアル支援事業

- 市の課題解決や市民生活の向上、及びスタートアップ等の革新的技術・アイデアの社会実装を推進するため、市をフィールドとした実証実験を支援。最大100万円の経費支援、専門家によるアドバイス、実証実験会場の確保やモニターのあっせんをととして、全面的にサポート
- 加えて、本事業で実証されたサービス等の迅速な社会普及を図ること等を目的として、社会受容性等の調査を支援する「つくば市場・市民ニーズ調査事業」を展開



● **スタートアップ^o支援情報一元化ウェブサイト
「TSUKUBA STARTUP JOURNEY」**

- つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム会員機関のスタートアップ支援情報や国の助成事業等の情報、さらには市内スタートアップの取組み等を一元的に情報発信するウェブサイトを構築
- 市内スタートアップの支援環境を整備するとともに、スタートアップがつくば市で成長するモデルケースを提示していくことで、スタートアップの創出や成長を促進



● **スタートアップ^o立地推進奨励補助金**

- 成長段階に応じた適性なインフラ（オフィス）環境の確保を支援するため、民間オフィスの賃料を補助（期間：最長1年間、金額：最大60万円、2024年度採択者：8社）
- 起業初期のインフラ環境としてつくばスタートアップパークでコワーキングスペースやレンタルオフィスを提供。市内の民間オフィスともイベント等をつうじて連携し、スタートアップに適時情報を発信

● スタートアップ[®]製品等試作改良支援補助金

- 新たな製品やサービス、技術の開発に挑戦するスタートアップを支援するため、製品等の試作や改良に要する経費の一部を支援（金額：最大30万円、2024年度採択者：6社）

ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 筑波大学と連携し、市内研究機関等の研究者を主な対象としたハンズオン支援型の実践的なアントレプレナーシップ教育プログラムを提供
- ✓ 多様な人々が集まり交流するスタートアップ推進拠点「つくばスタートアップパーク」を運営。日本政策金融公庫との共催で高校生のためのビジネスプラン作成講座等を開催（2022年度受講者が茨城県内で初めてコンテストベスト20に入賞）
- ✓ つくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム会員機関や市内スタートアップの「顔の見える関係性」構築のための交流イベントを開催
- ✓ つくばのスタートアップ環境のPRやVC等との繋がりを形成するイベント「Tsukuba Startup Night」をVenture Café Tokyoとの共催で開催（これまでに2,500名以上が参加）

● つくばアントレプレナー育成プログラム BizDev講座

- 市内教育・研究機関の研究者を主な対象として、事業化の必須スキルを実践的に学び、事業化シーズを投資対象となるビジネスプランに昇華させることができるハンズオン支援型の実践的教育プログラムを提供（2022年度～2023年度受講者のうち、農研機構やJAXAから認定ベンチャーを創出）
- 2021年度までは筑波大学が文科省EDGE-NEXT事業として実施し、以後はつくば市や国研等も資金を出しながら自走中

● つくばスタートアップパーク（一部再掲）

- 大学や研究機関が集積するつくば市の強みを活かし、テクノロジー系スタートアップ支援を核とした多様な起業ステージに対応するインキュベーション施設であり、国内外のスタートアップ関係者の交流拠点
- 毎週水曜日開催のイベントやオフィス環境の提供に加え、国家戦略特区制度を活用した「開業ワンストップセンター」や「外国人雇用相談センター」を開設し、全面的に起業や交流を促進
- 日本政策公庫と共催し、ビジネスプランの作成方法について基本を学びながら、論理的思考や協働による課題解決力などを養う高校生向けの特別講座を開催

● Tsukuba Startup Evening -Tech Net BBQ-

- つくば市とつくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム会員機関が連携し、コンソーシアム会員機関同士や市内スタートアップとが「顔の見える関係性」を構築し、より密なスタートアップ・エコシステムを形成していくことを目的に、飲食を含む気軽な交流イベントを開催

● Tsukuba Startup Night

- 市内に集結する研究・教育機関発の「ディープテックスタートアップ」を中心とした、つくばならではのスタートアップ・エコシステムを東京で体感するイベントをVenture Café Tokyoとの共催で開催。つくばのスタートアップ環境のPRや都内の企業・VC等との繋がり形成を目指す
- 関連して、本イベントの前後で開催するつくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアム会員機関のイベントを連動させ、「Tsukuba Startup Weeek」として発信



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
2人	4人	4人	4人	4人

<主な組織>

- 産業労働部産業支援課渋沢MIX担当

<今後>

- 2025年7月25日のイノベーション創出拠点「渋沢MIX」の開設に伴い、2025年度から産業支援課に渋沢MIX担当を設置し、スタートアップ推進体制を強化
- 渋沢MIXの運営委託事業者が配置するコミュニティマネージャーや共創コーディネーター、オープンイノベーションやスタートアップ支援等の知見を持つ専門人材と連携し、エコシステムの形成やスタートアップの創出・成長支援を強力に推進

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
623万円	2,340万円	1,798万円	2,520万円	19,481万円

<今後>

- 2025年7月25日に開設するイノベーション創出拠点「渋沢MIX」が掲げる3つのコンセプト「オープンイノベーションの創出・促進」「スタートアップの創出・成長支援」「イノベーションを担う人材の育成」に基づく事業を拡充・展開

ウ 方針

- 約500もの企業の創立に携わった埼玉県出身の偉人である渋沢栄一翁が、適切な人や企業をマッチングすることで企業を成長に導いたことに倣い、人々が出会い、つながり、共創することで新たなイノベーションが創出される場を目指し、さいたま新都心にイノベーション創出拠点「渋沢MIX」を2025年7月25日にオープン。
- 本施設では「オープンイノベーションの創出・促進」「スタートアップの創出・成長支援」「イノベーションを担う人材の育成」の3つをコンセプトに、イノベーション創出のための様々な取組を展開。

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 様々な業種・規模の企業や起業家等の交流・マッチングによりイノベーションを創出する拠点「渋沢MIX」の整備のため、必要な機能や支援内容等を検討（2020年度～）
- ✓ 検討結果に基づき、運営委託事業者を公募・選定。2025年夏の開設に向けて、内装設計・工事、運営方針の策定など開設準備を進めるとともに、周知イベントを開催（2024年度）

● イノベーション創出拠点「渋沢MIX」



- 様々な業種・規模の企業や起業家等の交流・マッチングによりイノベーションを創出する拠点「渋沢MIX」を2025年7月25日に開設

(イノベーション創出エコシステム)



(「渋谷MIX」内観パース)



● SusHi Tech Tokyoへの出展

- 東京都が毎年5月に開催するアジア最大級のスタートアップカンファレンス「SusHi Tech Tokyo」に県内スタートアップ企業とともに出展し、国内外の企業や投資家との交流・マッチングを支援

● ジェトロ埼玉との連携

- ジェトロ埼玉と連携し、県内スタートアップ企業の海外展開や海外企業とのマッチングを支援するとともに、海外企業の埼玉県内への誘致を支援

イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ 社会課題の解決を目指す起業家を育成するためのプログラムを開始（2021年度～）
- ✓ 県内企業のオープンイノベーションによる新規事業創出を支援する取組を開始（2023年度～）
- ✓ 県内企業がVCや金融機関等による支援を受けやすい環境を整備するため、「埼玉県民間資金による企業成長支援ネットワーク」を設立（2024年3月）
- ✓ スタートアップ起業希望者等（シード期）を対象とした短期集中型の伴走支援プログラム「埼玉県スタートアップ挑戦プログラム」を開始（2024年度～）
- ✓ 県と「創業支援に関する連携協定」を締結するVCが「埼玉県渋谷MIXイノベーション創出支援ファンド」を設立（2025年3月31日）

● 社会課題の解決につながる創業支援事業

- 社会的インパクトを与える新たなサービスの開発等により社会課題の解決を目指す創業希望者に対して、伴走型の支援を実施（埼玉県産業振興公社主催）

● Open Innovation Saitama

- 県内企業に対し、連携・協業による新事業の創出や企業課題・地域課題の解決手法を学び、実践する機会を提供することによりオープンノベーションの裾野を広げるとともに、社会課題や企業課題を協業により解決する伴走支援プログラムを実施



セミナー



ワークショップ

● 埼玉県民間資金による企業成長支援ネットワーク

- イノベーションの創出に取り組む県内企業の成長を後押しするため、VCや金融機関、支援機関等で構成する「埼玉県民間資金による企業成長支援ネットワーク」を2024年3月に設立（2025年1月末現在、19機関が参加）

● アクセラレーションプログラム

- 県内から多数の有望なスタートアップを輩出することを目的として、シード期及びアーリー期のスタートアップを対象に、短期集中型の伴走支援プログラムを実施



セミナー



集中講義

● 埼玉県渋沢MIXイノベーション創出支援ファンド

- 県と「創業支援に関する連携協定」を締結するVCが、県内の金融機関等と連携し、県内のスタートアップなど創業期の企業、第二創業・事業承継等により更なる成長・発展を目指す企業を支援するファンドを2025年3月31日に設立
- 県は渋沢MIXの様々な支援メニュー等を活用し、ファンドの投資先企業の成長を支援

ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 第一線で活躍する地域の起業家が、埼玉県内の中学校・高校を訪問し、講演する「出前『起業家講座』」を実施（2018年度～）
- ✓ 県教育委員会、日本政策金融公庫と連携し、高校生を対象としたビジネスプラン作成講座「高校生ビジコンcafe」を開始（2023年度～）
- ✓ 大学生等に対するアントレプレナーシップ教育の推進を目的とした大学間ネットワークを設立（2023年8月）
- ✓ 起業を目指す大学生等を対象とした学生向け起業伴走プログラム「CEOチャレンジ」を開始（2024年度～）
- ✓ 企業内でイノベーションを牽引する人材を育成する「新規事業開発実践ワークショップ」を開始（2024年度～）

● 出前「起業家講座」

- 第一線で活躍する地域の起業家が、県内の中学校・高校を訪問し講演することにより、アントレプレナーシップを育み、将来の地域経済を担う人材を育成



● 高校生ビジコンcafe

- 高校生を対象に、ビジネスプランの作成やピッチを通じて、これからの社会で活躍するために求められる「起業家精神」や「起業家的資質・能力」を養うプログラムを実施（県・県教育委員会・日本政策金融公庫の共催）



● 埼玉県アントレプレナーシップ教育推進ネットワーク

- 大学生等に対するアントレプレナーシップ教育の推進を目的として、県内の大学・支援機関等で組織するネットワークを構築（2025年1月末現在、4大学、1支援機関、個人12名が参加）

● 学生向け起業伴走プログラム「CEOチャレンジ」

- 起業を目指す大学生等を対象に、起業家やベンチャーキャピタル等の専門家による集合型講座、メンタリング等による伴走支援、ピッチイベントを開催し、実際に起業するまでを支援



集合型講義



ビジネスプランピッチ

● 新規事業開発実践ワークショップ

- 県内中小企業で新規事業の立ち上げや新商品・新サービスの開発等に携わる担当者等を対象に、新規事業の進め方や実現可能性を高める方法等を学ぶワークショップを実施することにより、企業内でイノベーションを牽引する人材を育成



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

<主な組織>

- ・経済農政局経済部産業支援課スタートアップ支援室
- ・経済農政局経済部雇用推進課（アントレプレナーシップ教育関係）

【産業支援課スタートアップ支援室（旧：新事業支援班）の職員数推移】

2020	2021	2022	2023	2024
3人	3人	3人	4人	4人

※2022年度までは「新事業支援班」として係長級以下3人を配置
→2023年度から「スタートアップ支援室」に移行し、課長級職員を室長として配置

<今後>

- ・順次、増員等による体制強化を図る。

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
1.35億円	1.44億円	1.49億円	1.50億円	1.61億円

<今後>

- ・既存事業を拡充する等、順次、予算規模拡大を図る。

ウ 方針

- ・基本計画において「都市機能の集積を生かした地域経済・社会の活性化」を戦略的視点として掲げ、地域経済の新たな担い手の輩出やイノベーションの創出を促す取組みを推進
- ・上記計画に係る実施計画（下記URL参照）に、アクセラレーションプログラムの拡充等の具体的施策を掲げている。

<https://www.city.chiba.jp/sogoseisaku/sogoseisaku/kikaku/sougoukeikaku/kihonkeikaku-dai1jijissikeikaku.html>

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 拠点都市機能強化プログラムを活用し、海外展開支援事業「スタートアップ・グローバル展開プログラム」を実施（ジェトロ千葉、千葉大学と連携）
- ✓ 2025年度から2026年度においては、千葉開府900年記念事業の一環として起業家海外展開実践研修等を実施予定
- ✓ スタートアップ都市推進協議会との連携により、J-StarX「地域起業家コース」に市内企業から14者派遣（2023年度のみ）

● スタートアップ・グローバル展開プログラム

- ・拠点都市機能強化プログラムを活用し、ジェトロと連携して実施
- ・2024年度においては、一般向けオンラインセミナー及び4日間の国内ブートキャンプを企画
- ・国内ブートキャンプには8者を選考の上で採択し、北米のアクセラレーターによるメンタリング、ワークショップ等を実施
- ・最終日はデモデイとしてピッチコンペを開催し、優勝者には、北米現地への派遣プログラムを提供
- ・毎年千葉大学を会場とする等、学生も巻き込み海外展開機運の醸成を図っている。

JEIRO × DMZ
千葉から世界へ
スタートアップ・グローバル展開プログラム 2024
12/10(火)～12/13(金)
応募締切: 2024年10月15日 23時59分
無料
10社程度
千葉大学 西千葉キャンパス内
応募者必読事項
応募方法



● 起業家海外展開実践研修・アントレプレナーシップ教育高校生海外派遣

- 2026年度に千葉開府900年を迎えるにあたって、「千葉一族からの学びを活かし、未来へ向けたひとづくり・文化づくり」の実現に向けた記念事業として実施（2025年度～2026年度）
- 起業家海外展開実践研修事業においては、海外展開を検討している市内企業を対象に、国内研修（マインドセット、ビジネスプランの底上げ等）及び海外研修（企業視察、フィールドワーク等）を行う予定
- アントレプレナーシップ教育高校生海外派遣事業においては、市内在住・在学の高校1・2年生を対象に、国内研修（コミュニケーション力向上、ビジネス研修等）及び海外研修（現地の起業家育成プログラムへの参加等）を行う予定

● J-StarX「地域起業家コース」への市内企業派遣（2023年度のみ）

- スタートアップ支援に積極的に取り組む自治体で構成する「スタートアップ都市推進協議会」が、同協議会の10周年記念事業として、経済産業省と連携し、会員自治体の起業家をJ-StarX「地域起業家コース」に採択。シリコンバレーに派遣
- 千葉市からは14者を派遣。海外展開に向けたマインドセット形成、基礎知識習得を目指し、現地でのメンタリング、起業家との交流、企業視察を実施
- 帰国後は、市内起業家の海外展開機運醸成に繋げるため、採択者以外の市内起業家を集めた報告会を開催



※報告会の様子

イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ アクセラレーションプログラムや新規事業創出支援事業を中心とするスタートアップ支援策を展開し、順次採択者数等を拡充
- ✓ シード期・アーリー期向けのビジネスコンテストから、ミドル・レイト期も対象としたトライアル発注認定事業、アクセラレーションプログラムにおける上場支援コース等、スタートアップの成長ステージに応じた切れ目ない支援施策体系の形成を推進

● アクセラレーションプログラム

- 事業の拡大・成長を目指す市内のスタートアップ企業を募集し、採択者に対してメンターによる個別メンタリングや業界知見を持つ支援者による課題解決講座等を約5か月間短期集中的に提供
- 「事業成長コース」と「上場チャレンジコース」を設け、創業前からミドル・レイト期までの幅広い成長ステージに対応
- 2024年度は5者（事業成長コース4者、上場チャレンジコース1者）を採択

● 新規事業創出支援事業

- 専門スキルを有する副業プロ人材を活用し、新事業推進や既存事業・経営基盤の強化を目指す市内企業を支援
- 経営支援のノウハウを有する事務局が採択者の経営課題や人材ニーズをヒアリングし、企業と副業プロ人材をマッチング。採用後のプロジェクトの進捗もサポート
- 2024年度は8者採択

● トライアル発注認定事業

- 市内の中小企業等が提供する優れた新製品・新サービスを市が認定。認定商品カタログへの掲載やPR動画の作成、見本市出展等、積極的なPRにより販路開拓を支援
- また、認定商品の一部を市が試験的に購入し評価（いわゆる4号随契の対象）
- 2024年度は18商品を認定



※2023年度の認定商品カタログ

● 大学連携施設入居者支援

- 千葉大学医学部・薬学部等のキャンパス内のインキュベーション施設「千葉大亥鼻イノベーションプラザ」を中小企業基盤整備機構・千葉大学・千葉県と連携して運営
- 市では、入居5年以内の企業等に対して入居者支援補助金（居室賃借料の2分の1程度）を交付
- また、インキュベーションマネージャー2人を市単独予算で配置。入居者に対して、（公財）千葉市産業振興財団と連携して個別支援（経営相談、販路開拓支援等）を実施



ウェットラボ



交流サロン



セミナールーム



● ベンチャーカップCHIBA

- 千葉市発の将来性ある新たなビジネスの創出を目指したビジネスプランコンテスト
- 2024年度は「ビジネスプラン部門」（賞金50万円）、「ビジネスアイデア部門」（賞金20万円）の2部門で実施
- 最終審査を発表会形式で行い、投資家、支援機関等が参加する場でのプレゼンテーションによる事業PRにつなげる。



● スタートアップ都市推進協議会

- スタートアップ支援に積極的に取り組む11市で構成。職員による勉強会、視察、意見交換会等を通じて先進的な取組を共有し、新たな施策の検討につなげている。
- また、各自治体のスタートアップと首都圏を中心とした大企業・投資家等とのマッチングイベント「JAPAN STARTUP SELECTION」を開催する等、協議会の枠組みを活用した取組を実施

ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 小・中・高校生向けにアントレプレナーシップ教育を展開する企業・大学・自治体の集合体として「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム Seedlings of Chiba」を設立（2021～）
- ✓ イノベーション創出機運の醸成を目的として、企業・個人間のコミュニティ形成に資する取組を行う市内のレンタルオフィス・コワーキングスペースを「イノベーション拠点」として認定する事業を実施（2023）

● 起業家支援施設（CHIBA-LABO）

- ・ 市内での創業を目指すアールステージの起業家の支援を主な目的として設置。運営事業者による定期的なイベント・相談会等の開催や（公財）千葉市産業振興財団との密接な連携により創業者を支援
- ・ 個室ブース・打合セルーム完備のコワーキングスペース。登記可
- ・ 市の他事業におけるイベントでも用いる等、起業家支援の拠点として活用



※イベントの一例

● ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム Seedlings of Chiba

- ・ 小・中・高生向けのアントレプレナーシップ教育を展開する企業・大学・自治体の集合体として2021年度に設立
- ・ 「子どもの「稼ぐ力」が育つまち・千葉の実現」を理念とし、起業塾や、起業家教育ワークショップ、起業家・学生によるトークイベント等の取組を実施



● イノベーション拠点認定事業

- ・ コミュニティの形成や事業の成長支援等のイノベーション創出に資する取組を行う市内のコワーキングスペース・レンタルオフィス等を「千葉市イノベーション拠点」として認定（認定施設の拠点整備・運営に係る経費に補助金を交付）
- ・ コミュニティマネージャーの機能を有する人材の配置、交流イベントの定期的な開催等を認定要件とし、企業間・個人間の交流を通じたイノベーション創出を図る。
- ・ 2024年度に事業開始。2025年1月末時点で4施設を認定



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
36人	38人	43人	137人	159人

<主な組織>

- ・ スタートアップ・国際金融都市戦略室イノベーション推進部
- ・ 産業労働局商工部創業支援課
- ・ 各局等にスタートアップ戦略推進担当（兼務）を配置

<今後>

- ・ 2025年4月にはスタートアップ戦略推進本部に改組し、スタートアップ推進体制のさらなる強化を図る

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
112億円	226億円	202億円	286億円	516億円

<今後>

- ・ 2025年度予算案には525億円を計上し、今後もスタートアップ施策のさらなる推進のために所要の予算を確保

ウ 方針

- ・ スタートアップ戦略“Global Innovation with Startups”を策定（2022年11月）
 - <https://www.startupandglobalfinancialcity.metro.tokyo.lg.jp/startup/strategy>
- ・ 新たな長期戦略「2050東京戦略～東京もっとよくなる」案を公表（2025年1月）
 - <https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/basic-plan/2050-tokyo>

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 国内外のプレイヤーの結節点となるイノベーション拠点“Tokyo Innovation Base”をグランドオープン（会員数31,878人・来場者数141,593人・イベント数638回）
- ✓ アジア最大級のスタートアップ・カンファレンス“SusHi Tech Tokyo”を開催（2024年度は国内から4万人以上が参加）
- ✓ 海外有力アクセラレーター・VCを誘致し、東京における本格的なプログラム展開を開始（Techstars、Alchemist、500）
- ✓ 海外の著名なピッチイベントや展示会にスタートアップを派遣するプログラム“X-HUB TOKYO”を展開（OUTBOUND PROGRAMとして、直近5年で306社採択）

● Tokyo Innovation Base (TIB)

- ・ 東京からイノベーションを巻き起こすことを目指し、国内外からスタートアップやその支援者が集い、交流する一大拠点「T I B」を2024年5月にグランドオープンした。様々なイベント・プログラムを展開することで、投資家、民間企業、大学、全国の自治体など、多くのプレイヤーを結びつける結節点としての機能を発揮させ、オールジャパンでスタートアップや起業を志す学生・若者の挑戦を後押し



● SusHi Tech Tokyo

- 持続可能な新しい価値を生み出す「Sustainable High City Tech Tokyo」を推進する取組として、国内外のスタートアップや起業家、投資家などが東京に集い、持続可能な未来の都市像を議論するとともに、交流を通じてイノベーションを生み出す、アジア最大級のスタートアップカンファレンスを開催



● TIB CATAPULT

- アグリ・フード、ライフサイエンス、宇宙など様々な領域に焦点をあて、事業会社等が連携体（クラスター）を組成し、それぞれの強み・特色を活かしながら、スタートアップとの協業によるイノベーションの創出を目指す

● X-HUB TOKYO

- 成長志向の高いスタートアップを選抜し、世界各地のピッチイベント・展示会等に派遣し、現地の大手企業やVC等とのマッチングの機会を設けるなど、グローバル展開につながるプログラムを実施

● APT Women

- 女性起業家に向けアクセラレーションプログラムを展開。選抜された受講生を海外に派遣し、現地メンターや起業家等へのプレゼン会などを企画することで、現地におけるネットワーク構築を支援

● 官民連携インパクト・グロースファンド

- 投資事業者と連携し、社会課題解決に向けて大きなポテンシャルを有するグロース期のスタートアップを支援するファンドを組成（都出資額：100億円）
- グローバルに活躍するスタートアップの創出、社会課題解決の促進及び都の資金を呼び水としたスタートアップ・エコシステムの持続的な発展を目指す

● SusHi Tech Global Project

- サステナブルなテクノロジーで社会の変革をもたらす、グローバルなスタートアップの創出を目指し、グロース期にあるサステナブル・テック系スタートアップのトップ集団を形成し、集中支援を展開
- 成長性の高いスタートアップについて、グローバルな成長に向けた資金的なサポートも合わせて実施

● 海外VC・アクセラレーターの誘致

- 独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）と連携し、海外の有力なVC・アクセラレーターを東京に誘致
- 東京でのアクセラレータープログラムの本格実施やSusHi Tech Tokyoの機会を活用した海外VC等とのマッチングなどを実施
- そのグローバルなネットワークやスタートアップの支援ノウハウを活用し、ポーングローバルなスタートアップの育成に取り組む



イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ 全庁を挙げて官民協働の取組を展開し、2024年度には186件を達成。今後、2027年までに2022年比で30倍の協働実施を目指す
- ✓ 政策目的随意契約を活用するなどして、東京都が積極的にスタートアップのファーストカスタマーとなる取組を推進
- ✓ 大企業等とスタートアップの協働を促進するプロジェクト“TIB CATAPULT”を開始（現在85社の大企業等が参画）

● Team Tokyo Innovation

- スタートアップとの協働を徹底的に進めるため、庁内横断組織「Team Tokyo Innovation」を編成。各局にスタートアップ担当を配置し、全庁でスタートアップ戦略を推進

● 都政現場を活用したスタートアップ協働プロジェクト

- 都政現場の課題をスタートアップに提示し、現場とスタートアップとが対話を重ねることで解決に向けたプロジェクトの組成・実施を図る「現場対話型スタートアップ協働プロジェクト」（2023年度協働件数10件）のほか、スタートアップからの自由な提案を受け付け、そのサービスなどを試験導入する取組も実施
- このほか、西新宿において行政とスタートアップの交流拠点を運営し、定期的なピッチイベントの開催などを通して、行政とスタートアップとの距離を縮める取組を展開



● ファーストカスタマーアライアンス（公共調達参入促進・自治体連携事業）

- 政策目的随意契約に係るスタートアップの認定情報等を自治体間で相互に活用できる仕組みを構築することで、全国と連携したスタートアップの公共調達を推進

● TIB PITCH

- TIBにて定期的に開催するピッチイベント（月1回程度）。採択されたスタートアップには、TIB内でプロダクトの試験導入や展示の機会を提供



● TIB CATAPULT（再掲）

- アグリ・フード、ライフサイエンス、宇宙など様々な領域に焦点を当て、事業会社等が連携体（クラスター）を組成し、それぞれの強み・特色を活かしながら、スタートアップとの協働によるイノベーションの創出を目指す（現在、事業会社等85社が参画）

● 大学発スタートアップ創出支援事業

- 学内の優れたシーズの事業化など大学発スタートアップの創出に向けた取組や学生向けのアントレプレナーシップ教育等学内の環境整備に向けた取組などを支援

ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 若者の起業・挑戦を後押しするプログラム“TOKYO STARTUP GATEWAY”を2014年から実施（2024年度申込者3,317人）
- ✓ 小中高校生向け起業家プログラムを展開し、これまでに小中学校38校において起業家教育を実施するとともに、高校生向けアクセラレーションプログラム（養成講座）には累計68人が参加
- ✓ TIBやSusHi Tech Tokyoを機会に学生の成長・挑戦を後押し（これまでに2,000人以上の学生が参加）
- ✓ スタートアップ支援を担う多様な主体との協働により、スタートアップの成長環境の充実を図る（これまでに支援者100者を採択）
- ✓ 様々な挑戦者を支援していくため、大企業の中から新事業の創出・起業に挑む者や再挑戦者への後押しも展開

● TOKYO STARTUP GATEWAY

- 次世代を担う若者を対象としたビジネスプランコンテストを実施し、コンテストで選ばれた者への集中的な育成支援や起業関心層を対象とした取組を行い起業を促進、起業の成功事例を広く発信することで、起業に対する機運を醸成

● 小中学校向け起業家教育推進事業

- 都内の開業率向上を図る上で、起業への関心を高めるとともに、変化や失敗から学ぶ、目標に向かって進む力、最後まで諦めない力、自分でやりきる力など子供生きる力を育成するため、起業家教育を総合的な学習の時間等に導入を図る都内小中学校を支援

● 高校生起業家養成プログラム

- 将来的に起業を目指す高校生等を掘り起こすことを目的とした養成講座を展開。実践的なプログラムを提供するとともに、身近なロールモデルとしての成果の発信やアルムナイのコミュニティ形成等により起業機運の醸成を図る

● TIB等を活用したスタートアップと学生・若者の交流

- スタートアップ等が一堂に会するキャリアフェアの開催や起業に関心のある学生のコミュニティづくりのほか、起業家の学校派遣など多様な取組を通じて、学生・若者のアントレプレナーシップを育む



● 多様な主体によるスタートアップ支援展開事業 “TOKYO SUTEAM”

- アクセラレーター、VC、事業会社等と協定を締結し、民間のアイデア、ネットワーク、フィールド等を最大限に生かした多彩なスタートアップ支援を実施

● 大企業からの挑戦や失敗等からの再挑戦を後押し

- 大企業の中で眠る優れたアイデアを掘り起こし、新たな事業創出、その先のカーブアウト型の起業等を促す取組“GEMS TOKYO”や起業の失敗への恐れを払拭し、起業機運をさらに高めていくため、廃業・倒産等の過去の経験を糧に再起を目指す起業家等への支援プログラム“TOKYO Re:STARTER”などを展開

(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
3人	5人	6人	6人	7人

<主な組織>

- 産業観光文化部 グローバル拠点都市推進課

<今後>

- 産業観光文化部 グローバル拠点都市推進課
※現在、連携先組織を一部再編中。

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
0.5億円	1.0億円	1.9億円	3.1億円	3.5億円

<今後>

- 2025年度予算は3.0億円

ウ 方針

- 2020年に「渋谷区産業・観光ビジョン」を策定。2029年までの計画期間における、産業・観光の活性化による国際都市の実現を目指し、地域性を活かしたスタートアップ・エコシステム構築に取り組む。
- 戦略の詳細は、以下に掲載
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/shisaku/shibuyaku-sangyo-plan/sangyokanko_vision.html

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 外国人起業家向けワンストップサービス“Startup Welcome Service”を通じた国内ビジネスの立上げ支援（2025.1時点の累計：証明書発行数91件、経営管理ビザ移行22人）
- ✓ 海外スタートアップ向けポータルサイト“Shibuya Startup Support”を公開し、各種SNSも運用。（2024年度サイトのページPV数81,000件、LinkedInフォロワー数8,100+）
- ✓ 国際イベントの招致（2024.7開催のEDCO2024では79ヶ国から9,600+が来場）
- ✓ 海外スタートアップ・エコシステム関係者の視察受入れ（2024.4～2025.2時点で43件）

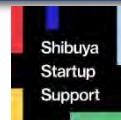
● Startup Welcome Service

- 2021年3月より、起業や事業展開を検討している外国人や外国企業向けに、日本進出する際のハードルとなるビザ取得等の煩雑な各種手続きの他、生活面についても包括的に支援する一元窓口“Startup Welcome Service”を設置し、海外起業家の誘致を実施。



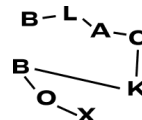
● Shibuya Startup Supportによる発信

- 2020年9月より、ポータルサイト“Shibuya Startup Support”を公開。スタートアップビザに関する情報や実証実験の登録案内など、区の支援施策のランディングページとして運用。
- 2021年4月より、SNS（LinkedIn、Twitter、Facebook）の運用を開始。各種イベント情報、スタートアップ・エコシステムに関するニュースやインサイト発信を行う。



● グローバルメディア“Black Box”

- 2023年12月に国内のスタートアップシーンを英語で発信するグローバルメディア「Blackbox」をローンチ。ニュース記事、起業家や支援者を対象としたインタビュー記事、イベントレポートなどを掲載。地域別のディレクトリページも開設し、日本の魅力を発信。



● シブヤスタートアップ株式会社の設立

- 2023年2月に、東急株式会社、東急不動産株式会社、GMOインターネットグループ株式会社の3社と共同でグローバルスタートアップ育成機関「シブヤスタートアップ株式会社」を設立。
- 支援対象スタートアップに対しハンズオン支援を行い、グローバルに活躍するスタートアップの輩出を目指す。



● 国際イベント開催・招致

- 公共空間を活用して行われるアート・テックの祭典“DIG SHIBUYA”において、国内外の企業家のピッチ・ビジネスマッチングイベントCreativetechを開催。イベント参加者は約120人。
- 世界主要都市で開催される国際的なイーサリアム開発者会議“EDCON”を2024年に渋谷へ招致。各種セッションやワークショップが開催された。イベント参加者のおよそ7割が外国籍。

● Digital Nomad in Shibuya

- アート・テックの祭典“DIG SHIBUYA”の開催にあわせてトライアルで実施。コワーキングスペースの提供や住居の割引特典を用意。30名以上から応募があり、今後も継続実施を検討。

● グローバルイベントへの出展

- 国内外で開催されるグローバルイベントにおいて、登壇やサイドイベントを開催。スタートアップの出展も支援。

● 海外エコシステム関係者との関係構築

- 海外スタートアップエコシステム関係者の視察依頼に対応。
- グローバルに活躍するエコシステムビルダーや投資家とも連携し、共催イベント等も開催。



イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ 実証実験事業“Innovation for New Normal from Shibuya”での採択と、実装に向けた取組を実施。（累計採択100件、うち実装11件）
- ✓ スタートアップ認定制度“S-startups”による伴走支援の実施。（累計採択企業数16社）
- ✓ スタートアップ支援拠点の活性化と各種イベントの実施
- ✓ 行政課題とスタートアップをマッチングする大型イベントの開催（2024年度内に2回開催、参加者数176名）

● 実証実験と実装

- 2020年から 実証実験事業“Innovation for New Normal from Shibuya”を開始。
- 東京都の実証実験事業（KING SALMON PROJECT、TIB CATAPULT）に対し、実証フィールドを提供（3件実施、2件調整中）
- 地方自治法施行令第167条の二第1項第4号に基づく政策目的随意契約を制度化に向けて検討中。



● 行政課題とのマッチングイベント

- 2024年より、産官学民連携を進めるため、区の事業や課題をスタートアップを含む民間企業と共有する“渋谷共創プロジェクト Meet Up”のイベントを開催。

● スタートアップ認定制度“S-Startups”

- 2023年より、区の官民連携コンソーシアム“Shibuya Startup Deck”を通じて渋谷から世界に成長するスタートアップを認定・支援する制度“S-Startups”の運用を開始。実証実験の調整など、伴走支援を行う。



● ビザホルダーへのハンズオンサポート

- 有識者によるメンタリングや大企業との繋ぎ、行政との実証実験の調整や、国内外のイベント登壇・ブース出展の機会提供によりビジネス展開を支援し、経営管理ビザ取得をサポート。



● スタートアップ支援拠点の活性化

- 2023年9月にコミュニティ拠点を移転。各種イベント開催や支援先スタートアップが活動拠点として利用。（登記も可能。）
- 毎週／毎月行う定例のイベントに加えて、大規模イベントに合わせてサイドイベントを開催するなど、2024年度内で既に35件のイベントを開催し、62件の外部イベントに参加。
- 毎週水曜日には定例的にネットワーキングイベントを開催。月に1度は支援者を対象としたクローズドなイベントを実施。支援先スタートアップが主催するイベント開催なども行われている。



ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 官民連携コンソーシアム“Shibuya Startup Deck”を組成し、スタートアップ・エコシステム構築に向けた取組を推進。（2025年2月時点での会員数202社）
- ✓ エコシステム拠点で週次／月次のネットワークイベントを開催（2024年度は51回開催し、681名が参加）
- ✓ 国の施策と連携し、国家戦略特区による規制緩和（累計6件提案、2件全国措置）
- ✓ エコシステム活性化のため、国内外にネットワークを持つ団体と連携協定を締結。（3都市1大学2団体）

● Shibuya Startup Deck



SSCA
Shibuya Smart City Association

- 2020年11月に官民連携のコンソーシアム“Shibuya Startup Deck”を発足。不動産、金融など分野ごとに8の部会を組成し、スタートアップのための取組を検討・推進。
- 連携事業に対する補助金を設け、採択案件に補助金を交付。
- 2024年3月にコンソーシアム会員企業と区が課題を発表するリバースピッチイベント開催。136名が現地参加。
- 都市データの活用促進に向け、一般社団法人スマートシティ推進機構（SSCA）との組織統合を調整中。

● ネットワーキングイベント（再掲）



- スタートアップ支援拠点で定期的にイベントを開催。エコシステム関係者が参加者に対して英語でピッチを行うなど、国内外の起業家や投資家が渋谷に集う。

● 国家戦略特区提案

- 現在「海外投資家ビザ」の制度化に向け、共同提案を行った東京都と連携して協議を継続。海外からの投資家の呼び込みを目指す。以下の案件については、全国措置に至る。
 - ① スタートアップビザホルダーの口座開設要件の緩和
 - ② 経営管理ビザ更新時に必要な事業継続性の確認要件緩和

● 連携協定締結（自治体、大学等）

- 東京都の創業・成長支援プログラム（NEXs TOKYO、TOKYO UPGRADE SQUARE、ASAC等）と連携し、イベント登壇や相互送客、メンターとしてのプログラム参加を行う。
- 札幌市、横浜市、神戸市と連携協定を締結。実証実験のフィールド提供や女性起業家育成プログラム実施において連携。
- 沖縄科学技術大学院大学（OIST）、東京大学IPC、北欧系の支援団体（Nordic Innovation House Tokyo）と連携協定を締結し、起業家の相互送客や連携イベントを実施。

● Japan Venture Academy

- 2023年より、アントレプレナーシップ教育を英語で実施し、外国人留学生が多く参加。プログラム修了後に日本での起業を志す学生も。



● 女性起業家支援

- 2021年より、女性起業家を対象とした支援施策やプログラムを運営。エコシステム内の多様性推進を図る。



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

※産業振興課の体制のみ記載

2020	2021	2022	2023	2024
7人	8人	9人	9人	10人

<主な組織>

- 産業労働局産業部産業振興課
- 同 企業誘致・国際ビジネス課
- 政策局いのち・未来戦略本部室

<今後>

- 庁内の関係部署が連携し、ベンチャー企業・スタートアップ※の創出・成長支援に取り組む

※以下、ベンチャー企業と表記する

イ スタートアップ関連予算

※産業振興課の予算のみ記載

2020	2021	2022	2023	2024
2.4億円	2.1億円	2.7億円	2.6億円	2.9億円

<今後>

- 今後も継続して、ベンチャー企業の創出・成長支援に取り組む

ウ 方針

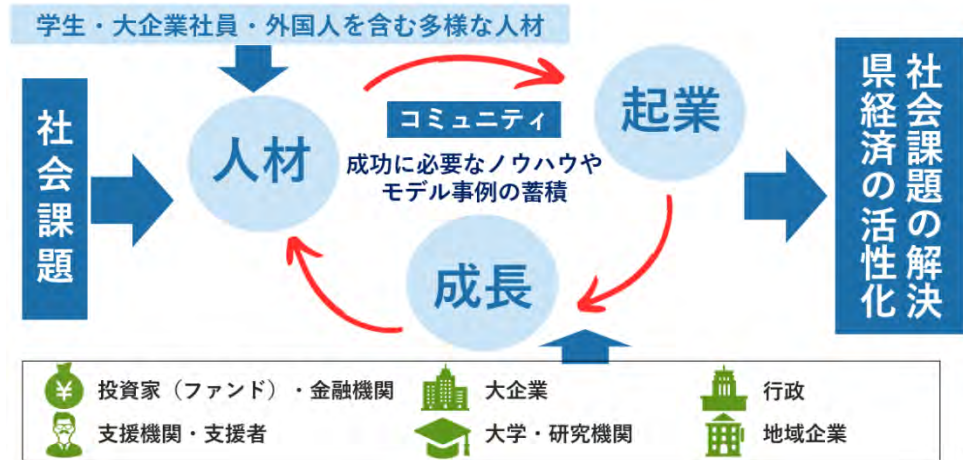
- ベンチャー支援のかながわモデル「HATSU-SHIN KANAGAWA」により、社会課題の解決をビジネスとして取組、成長するベンチャー企業を創出・育成。

起業家の創出 「HATSU」 ベンチャー企業の成長促進 「SHIN」

かながわ“発”の起業家やベンチャー企業の輩出 成長期ベンチャーと大企業の協業を通じた成長の加速



- 起業前から各成長段階に応じた切れ目のない支援。
- 市町村や支援機関等と連携したオール神奈川の支援。



- 新産業の創出・育成等を図るとともに、健康長寿社会の実現をめざすため、「最先端医療・最新技術の追求」と「未病の改善」という2つのアプローチを融合させ、持続可能な新しい社会システムを創造していく「ヘルスケア・ニューフロンティア」政策の中で、ヘルスケア関係のベンチャー企業を支援。



(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 外国人起業家が県内で起業する際に必要な「経営・管理」の在留資格の取得要件を緩和（令和元年度に制度開始し、証明書交付2件（うち在留資格「経理・管理」への移行1件））
- ✓ 海外駐在員を通じてベンチャー企業を含む海外からの企業誘致に取り組んだほか、ベンチャー企業を含む県内中小企業のニーズに応じた海外展開を支援。
- ✓ ライフサイエンス等の分野における海外の先進地域などとのネットワークを活用し、最先端医療や未病産業などにおける国際展開を推進。

● スタートアップ・ビザ

- 外国人起業家が県内で起業する際に必要となる「経営・管理」の在留資格の認定要件を、特区制度を活用して緩和し、外国人起業家の県内での創業を支援。

● 海外駐在員による外国企業誘致

- 海外駐在員が海外ベンチャー企業を含めた企業誘致に取組、県としてレンタルオフィス提供や拠点設立経費の一部を補助。
- 海外駐在員を中心に、ベンチャー企業を含めた県内中小企業の個々のニーズに応じた海外展開支援を実施。

● ヘルスケア・ニューフロンティアの国際展開推進

- 海外の先進地域などとのネットワークを活用しながら、ライフサイエンス等の分野の産学公連携を推進することで、最先端医療や未病関連分野の産業の国際展開を促進。

イ スタートアップの成長を支援する <直近5年の動き>

- ✓ HATSUチャレンジャー制度ではこれまで合計115名の起業準備者を伴走支援し、76名が実際に事業化に着手。
- ✓ かながわ・スタートアップ・アクセラレーション・プログラム（KSAP）では事業開始（2017年）からこれまで合計62社を支援し、支援期間中に7.5億円の資金調達を実現。
- ✓ ベンチャー企業と大企業等の連携プロジェクトを75件創出。また、事業化に向けた伴走支援も実施するなど、創出したプロジェクトのうち34件が事業化。
- ✓ クラウドファンディング事業者と連携し、プロジェクト掲載手数料等の優遇及び広報支援を実施。
- ✓ 国家戦略特区などを活用した支援により、県内に集積する最先端医療関連のベンチャー企業数が93件（2023年度時点）。

● HATSU起業家支援プログラム

- 県内各地のコワーキング施設等と連携して、HATSU鎌倉など3か所の拠点において起業家の創出に取り組む。
- 専門家による相談対応、先輩起業家や起業準備者との交流機会の提供、有望な起業準備者に対する集中支援を行う支援プログラムにより、起業準備者の起業を後押しする。



KSAP

かながわ・スタートアップ・
アクセラレーション・プログラム

BAK

ビジネスアクセラレーター

かながわ(BAK)

● かながわ・スタートアップ・アクセラレーション・プログラム (KSAP)

- 社会課題解決に取り組むベンチャー企業を対象とし、製品・サービスの実装に向けた起業直後の短期伴走支援と、売上や雇用の拡大に向けた起業初期の伴走支援を実施。

● ビジネスアクセラレーターかながわ (BAK)

- 神奈川県内に拠点を持つ大企業等と、ベンチャー企業とのオープンイノベーションの実現を支援。マッチング支援により、社会課題の解決に向けたベンチャーと大企業による連携プロジェクトを創出。
- 有望な連携プロジェクトに対しては、新サービス等の開発・実証に必要な経費の交付や伴走支援を行い、事業化を促進。

● ベンチャー企業と行政の連携支援

- 神奈川県内の自治体とベンチャー企業の連携支援により、行政課題・社会課題の解決を目指す連携プロジェクトを創出。
- 自治体とベンチャー企業のマッチング支援に加え、新サービス等の開発・実証に必要な経費の交付や伴走支援を行い、事業化を促進。

● 資金調達支援

- 社会課題解決に取り組むベンチャー企業の資金調達を支援し、事業成長を促進するため、県のベンチャー支援拠点「SHINみなとみらい」において、資金調達に関する相談対応や投資家等とのマッチングを実施

● ベンチャー限定クラウドファンディング「かなエール」

- ベンチャー企業の資金調達支援として、県と提携するクラウドファンディングサービスを利用する際に、手数料の優遇や広報活動の支援を実施。



● イノベーション社会実装本部事業

- 県の社会課題（未病改善等）の解決に向け、県内大学やベンチャー企業等が持つ技術や知財を発掘し育成するとともに、当該技術等を活用して商品・サービス化し、社会実装していくため、専門家がサポート・コーディネート。

● 神奈川ME-BYOリビングラボ

- ヘルスケア分野のベンチャー企業などを対象に、市町村や健康経営を実践する企業、アカデミア等と連携し、製品・サービスの機能・効果等を検証する実証フィールドのマッチングを支援するとともに、その実証結果を評価。

● ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド

- 医療や福祉・介護における社会的課題の解決につながるベンチャー企業を支援するため、ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドを2018年に組成。

● 最先端医療・最新技術の追求

- 川崎市殿町地区（キングスカイフロント）に再生・細胞医療の産業化拠点「ライフイノベーションセンター（LIC）」を整備。関連企業や大学等23機関が入居。4階をベンチャーフロアとして(株)ケイエスピーが入居事業者の成長を支援。
- ベンチャー企業等によるイノベーションの創出を目的に「かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク（RINK）」を設立。関係企業・大学等が参加し、再生・細胞医療の実用化・産業化を促進。

再生・細胞医療の産業化拠点
「ライフイノベーションセンター」



ウ エコシステム形成の土台を作る ＜直近5年の動き＞

- ✓ 若年層に起業への関心を持ってもらうため、大学生等を対象に、起業家との交流会やビジネスプラン作成講座を開催するとともに、学生を対象としたビジネスコンテストを実施。毎年度、数百名が参加するとともに、コンテスト出場者から起業し、成長する事例が生まれている。
- ✓ ベンチャー企業の成長促進拠点「SHINみなとみらい」は、月600名以上が利用し、ベンチャー企業・大企業・投資家・支援機関の交流が活発化。
- ✓ 鎌倉で令和元年に開始した起業支援の取組を令和4年度に県央地域（厚木）及び県西地域（小田原）に横展開するなど、市町村と連携しながら神奈川県内全域に取組を拡大。

● 次世代起業家創出事業

- 起業の裾野拡大に向け、大学生・高校生等の若年層に起業に関心を持ってもらうため、起業家との交流会、ビジネスプラン作成講座、学生ビジネスコンテストを実施。
- また、県内大学が参加する起業家教育推進協議会を運営し、大学での起業家教育を推進。

● ベンチャー企業の成長促進拠点「SHINみなとみらい」

- WeWorkオーシャンゲートみなとみらい内に、ベンチャー企業の成長促進拠点「SHINみなとみらい」を設置・運営し、起業家や大企業・行政が集まるコミュニティの形成を促進。
- 本拠点を活用し、ベンチャー企業に対して様々な成長支援プログラムの提供や交流イベントを開催。

ベンチャー企業の成長促進拠点
「SHINみなとみらい」



● 市町村連携ベンチャー支援事業

- 県域全体で効果的に起業家の創出とベンチャー企業の育成を図るため、横浜市と連携して、若年層や外国人などへの起業支援を行うとともに、相模原市と連携して、県央エリアの官民連携ベンチャー支援組織を立ち上げる。

● 支援情報の一元化発信・PR

- 神奈川における支援情報を一元化した起業家向け情報プラットフォームを構築し、有益な支援情報を必要なタイミングで起業家に届けるとともに、神奈川のベンチャー支援のエコシステムを県内外に発信。

(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
22人	22人	25人	25人	33人(※)

<主な組織>

- 経済局ビジネスイノベーション部イノベーション推進課
(※2024年度～産学官連携、スタートアップ支援、国際ビジネスの担当課をイノベーション推進課に統合)

<今後>

- 経済局を中心に関係局と連携しながら推進

イ スタートアップ関連予算（当初予算額）

2020	2021	2022	2023	2024
4.1億円	3.2億円	3.0億円	3.2億円	4.5億円

<今後>

- ユニコーン・クラスのスタートアップ創出を目指し、グローバルな活躍が期待できるテック系スタートアップを重点に、支援策を展開

ウ 方針

- 横浜市中期計画2022～2025において、「スタートアップの創出・イノベーションの推進」を掲げ、スタートアップの創出と成長支援に取り組む。
- 2024年11月、テック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」を開設。横浜を世界に挑戦するテック系スタートアップの集積地へと発展させるため、多様な企業・団体とのさらなる連携に向けた方策を市長から発信。

(2) 主な取組

ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 2024年11月、みなとみらい地区にグローバル展開を目指すテック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」を開設（グローバル関連をはじめとするイベント42回開催）
- ✓ 2023年に海外の支援組織2者（The Drivery、Start2 Group）とMOUを締結し、協働でスタートアップ支援の取組を実施

● テック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」

- 起業初期からグローバル展開を目指すスタートアップの創出に向けて、Venture Café Tokyoによるイノベーション促進/交流プログラム「YOKOHAMA CONNECT」などを実施。



● 海外のスタートアップ支援機関との連携

- 2023年12月に海外のスタートアップ支援組織2者とMOUを締結。グローバルに活躍できるスタートアップの創出に向けて協働。

① The Drivery

- ドイツ・ベルリンのモビリティに特化したイノベーション支援組織
- モビリティ分野のスタートアップ支援を横浜で展開

② Start2 Group

- 国際的スタートアップ支援機関
- 海外スタートアップと市内企業等とのネットワーキングイベントを横浜で開催



イ スタートアップの成長を支援する <直近5年の動き>

- ✓ 2024年11月、テック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」を開設（スタートアップ40社、大企業・VC等48社がメンバー登録）
- ✓ 2023年度～国内外のテック系スタートアップの事業化を支援するため、「技術系スタートアップ実証実験等支援プログラム」を実施（国内10件、海外3件を支援）
- ✓ 2023年度～、関連企業の集積や、「The Drivery」との連携関係を生かし、モビリティ分野の新規事業創出の取組を目指す「ヨコハマ モビリティ イノベーション」を展開（2023年度～2024年度の2か年でイベント・セミナー17回開催、来場者数のべ約1,000名）
- ✓ 2022年度～、まちぐるみでイノベーション創出を推進するイベント「YOXO FESTIVAL」を開催（2024年2月開催時：出展者数132者、イベント数30件、来場者数約5.5万人）

● テック系スタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」(再掲)

- 協業促進や資金調達に向け、コミュニティマネージャーによるコーディネート等を通じて、VC等との日常的な接点の構築、民間の「ラボ付き」、「工作スペース付き」オフィスの紹介等を実施。

● モビリティ・イノベーションの促進

- モビリティ分野でのイノベーションが生まれるコミュニティ形成に向けて、国内外のスタートアップや事業会社、技術者、研究者、VC、支援者等が横浜に集まり・つながるセミナーや交流イベントや、新規事業創出に関する相談支援等を実施。



● 実証実験支援

- 国内外のテック系スタートアップの 製品・サービスの実証フィールドやトライアル導入先の調整などの伴走支援とあわせて、必要な経費の一部を助成し、事業化を後押し。



● 横浜発のイノベーションショーケース

- 企業や大学等のイノベーターによる「未来」をテーマとした展示（ロボット、モビリティ、XR等）やイベントからなる「YOXO FESTIVAL」を開催。まちぐるみでのイノベーション創出を推進。



ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 2019年10月、関内地区に「YOXOBOX」を開設、2019年度～2023年度の5か年で支援件数のべ514件、支援したスタートアップが受けた投資額約233億円
- ✓ 2022年度～市内の小中学校等を対象とした「会社経営体験プログラム」を実施、2022年度～2024年度の3か年で15校、のべ2,285名が参加

● 次世代起業人材育成

- 2019年10月に「YOXO BOX（よくぞボックス）」を開設。起業志望者を対象としたビジネス講座の開催から、専門家によるビジネスプランの磨き上げ、資金調達先とのマッチングなどに至るまで成長段階に応じた支援を行い、社会課題の解決に貢献する起業家の創出と成長を支援。



- 市内の小学校、中学校、特別支援学校を対象に、起業や会社経営の体験ができる「会社経営体験プログラム」を実施。起業家教育を通じて、子どもたちにチャレンジ精神や探求心、他者と協働して新たな価値を創造する力を育み、次世代を担う人材を育成。



(1) 体制・予算・方針

ア スタートアップ推進体制

2020	2021	2022	2023	2024
28人	27人	28人	29人	29人

<主な組織>

- ・ 臨海部国際戦略本部成長戦略推進部
- ・ 経済労働局イノベーション推進部

<今後>

- ・ 2025年度以降、イノベーション・エコシステムの形成に向けた拠点間の促進連携等に向け、体制強化を図る。

イ スタートアップ関連予算

2020	2021	2022	2023	2024
4.5億円	4.1億円	4.8億円	4.0億円	4.9億円

<今後>

- ・ 2025年度以降、取組の進捗を踏まえ、必要な予算の確保を検討していく。

ウ 方針

- ・ キングスカイフロントにおけるライフサイエンス関連の新産業を創出する体制構築の推進とグローバル展開を目指した起業家成長支援。
- ・ K-NICにおける起業家への総合的支援やアクセラレーションプログラムによる伴走支援、新川崎や殿町地区におけるインキュベーション支援等、事業者のフェーズに応じた支援を継続。
- ・ 新川崎地区の機能更新や臨海部の大規模土地利用転換、イノベーション・エコシステム形成に向けた拠点間の連携促進の取組。

(2) 主な取組

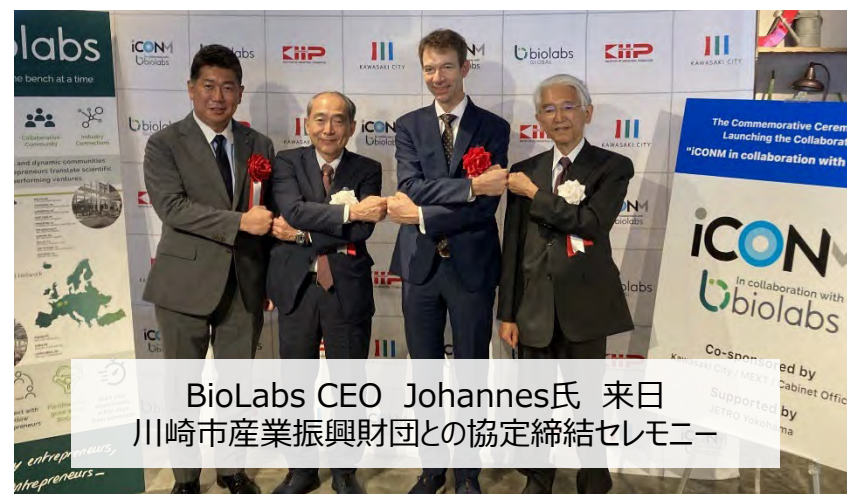
ア 世界とシームレスにつながる

<直近5年の動き>

- ✓ 民間組織との連携による世界と繋がるスタートアップ企業の創出及び成長支援の取組
- ✓ 地域大学による世界と繋がるスタートアップ企業の創出及び成長支援の取組

● 民間組織との連携による世界と繋がるスタートアップ企業支援の取組

- ・ 【(アメリカ) BioLabs】川崎市産業振興財団が米国のインキュベーターであるBioLabs社と協定を締結し、ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)におけるインキュベーション事業で連携 (2022年)



BioLabs CEO Johannes氏 来日
川崎市産業振興財団との協定締結セレモニー

● 民間組織との連携による世界と繋がるスタートアップ企業支援の取組

● 【(ドイツ) ミュンヘンバイオクラスターマネジメント組織BioM】

健康・医療分野を中心とした経済交流に関する覚書を締結(2023年)。

● 【(アメリカ) BIO-COM 意見交換】

アメリカのライフサイエンスクラスターBiocom CEOが来日し、意見交換(2023年)。

● 【(ドイツ) ヘルスケア・バイオ・製薬 交流イベントin KINGSKYFRONT】

ドイツのスタートアップ企業とキングスカイフロントの立地企業との交流イベント「ヘルスケア・バイオ・製薬 交流イベント in KINGSKYFRONT」を開催。

事前審査を通過したドイツのバイオ系スタートアップと殿町立地企業の交流を促進(2023年)。



Biocom CEO Joseph Panetta氏来日

● 地域における大学の世界と繋がるスタートアップ創出・支援の取組

● 【東京大学・早稲田大学・東京科学大学等 (GTIE)】

13の大学・スタートアップ支援機関から構成される共同機関と、大学や自治体等が協力機関として参画し、グローバルで戦える大学発スタートアップを育成・創出を図る。

● 【東大、慶應大、理化学研究所、OIST、シカゴ大】

「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)政策重点分野(量子技術)」において採択された量子技術に関するプロジェクト。新川崎・創造のもり地区において、産学官共創による量子技術を活用したスタートアップ企業の創出・活性化を推進。

● 【東京大学、(旧)東京医科歯科大学、東京医科大学、東京科学大学、東京理科大学、東京女子医科大学 (COINS)】

「革新的イノベーション創出プログラム(COI)」において採択されたライフサイエンス分野のプロジェクト。川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンターにおいて、体内病院の実現に向け革新的なイノベーションを産学連携で創出することを推進。研究成果・基盤技術をもとに10社のベンチャーの立ち上げに成功。

● 【東京大学、東京科学大学、川崎市立看護大学 (CHANGE)】

「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)共創分野本格型」において採択されたライフサイエンス分野のプロジェクト。川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンターを中核機関として、医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会の実現をビジョンに掲げ、イノベーションエコシステムをグローバルに展開し、看護領域における新産業創出を推進。

2024年にケア現場のニーズと企業のシーズをマッチングさせる「かわさきケアデザインコンソーシアム」を設立。

イ スタートアップの成長を支援する

<直近5年の動き>

- ✓ K-NICにおいて、NEDOとの連携による強みを生かし、研究開発型スタートアップを中心に、起業家のニーズやフェーズに応じた総合的な支援の取組を推進
- ✓ 強力なメンターが集うアクセラプログラム「Kawasaki Deep Tech Accelerator」により、有望なスタートアップの成長加速化を推進（2018年からこれまで68者の支援を実施）
- ✓ 本市インキュベーション施設「かわさき新産業創造センター」において、ミドル期前後のベンチャー企業の更なる成長を支援
- ✓ キングスカイフロントにおける川崎市産業振興財団が運営するシェアラボ「iCONM in collaboration with BioLabs」及びシェアオフィス「殿町コネクト」事業により、スタートアップの成長支援を推進

● Kawasaki-NEDO Innovation Center (K-NIC)

- 本市、市内に立地するNEDO、市産業振興財団の3者で運営する起業家支援のワンストップ拠点。研究開発型スタートアップをはじめとした様々な分野の起業家を総合的に支援。
- 法務・金融・海外展開など様々な分野の専門家や連携する事業会社・金融機関等により、セミナー・個別相談会、成長支援プログラム、交流イベントなどを実施する。



● Kawasaki Deep Tech Accelerator

- 研究開発型ベンチャー企業等を対象として、様々な分野からなるメンター陣により伴走支援を行うアクセラレーションプログラム。
- 事業計画の精査をはじめ、投資家からの資金調達、事業会社との提携、人材マッチング等を支援し、事業成長の加速化を図る。（2018年の事業開始からこれまで68者の支援を実施）



● 新川崎・創造のもり「かわさき新産業創造センター」

- 本市がベンチャー企業支援等を目的として整備したインキュベーション施設。共用の加工設備やクリーンルームを備えるとともに、専門知識と幅広いネットワークを有するマネージャーが常駐し、入居企業の成長を支援。



● シェアラボ「iCONM in collaboration with BioLabs」

- 川崎市産業振興財団がナノ医療イノベーションセンター（iCONM）において運営するライフサイエンス分野のインキュベーション施設。iCONMの優れた研究設備を提供するとともに、米BioLabs社と協働し、有望なスタートアップのグローバル展開を見据えた成長を支援。

● シェアオフィス「殿町コネクト」

- 川崎市産業振興財団が運営。オープンイノベーション拠点であるキングスカイフロントに手軽に進出が可能なシェアオフィス。

ウ エコシステム形成の土台を作る

<直近5年の動き>

- ✓ 2020年より、市内企業等と連携し、小中学生向けのアントレプレナーシップ醸成講座「かわさきジュニアベンチャースクール」を実施（2024年度受講者89人）
- ✓ 2022年より、東京大学及び日本IBM(株)と連携し、高校生向けの技術者育成講座「量子コンピューターサマーキャンプ」を実施（2024年度修了者24人）
- ✓ 「新川崎・創造のもり」における量子イノベーションパークの実現に向けた機能更新の取組及び、臨海部、内陸部における新たな拠点形成に向けた取組、拠点間の連携促進に向けた取組の推進

● かわさきジュニアベンチャースクール

- 小・中学生を対象として、自ら課題を発見し、仲間とともに課題解決のアイデアを形にして、新しい事業を創造する力を身に付けることを目的に、2021年より実施。
- 参加者が問題解決のアイデアを具体化する過程を通して主体的に物事を考え、行動ができる能力を培うことを目的とした【実践講座】と、市内企業の協力のもと、科学体験やものづくり体験、同年代の身近な先輩アントレプレナーとの交流を通じて、楽しみながら“起業”に興味をもってもらうことを目的とした【体験講座】の2講座で構成。



● Kawasaki Quantum Summer Camp (量子コンピューターサマーキャンプ)

- 本市及び東京大学、日本IBM(株)の3者による「量子コンピューティング技術の普及と発展に関する基本協定」に基づき、高校生を対象にした量子コンピューターの基礎を学ぶイベントを実施。
- 情報化の未来を担うと期待される最先端の量子コンピューターを使いこなせる能力を身につけるきっかけとしてもらうためのプログラムであり、2022年より実施している。



● 新たな拠点形成に向けた取組及び拠点間の連携促進に向けた取組

- 「新川崎・創造のもり」において、量子技術等の最先端コンピューティング分野の「知と人材」が集積する新たな拠点形成を実現するため、良好な研究環境等を整える機能更新を実施する。
- 臨海部の川崎区南渡田地区における大規模土地利用転換に伴う、スタートアップ育成施設を含む新たな拠点形成の取組を推進する（2027年竣工予定）。
- 高津区下野毛地区における産業支援施設、麻生区南黒川地区におけるシェア型製造・研究開発施設の新設等に伴う、新たな拠点形成に向けた取組を推進する。
- これら拠点間の連携促進に向けた取組を推進する。

参画メンバーの主な取組（大学の取組）

- 東京コンソーシアム会員として2025年1月時点で25の大学が加盟
- 各大学を拠点としたエコシステムを形成し、スタートアップの成長とグローバル連携を推進してきた

主な取組大学

特徴的な取組

世界とシームレスに繋がる

- 東京大学
- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- お茶の水女子大学
- 茨城大学
- 千葉大学
- 筑波大学
- 電気通信大学
- 東京科学大学
- 東京農工大学
- 神奈川県立保健福祉大学
- 芝浦工業大学
- 順天堂大学
- 中央大学 等

- メルボルン大学ビジネススクールと連携した現地起業研修（海外武者修行プログラム）を2025年2月に実施し、多くの起業意欲溢れる学生を派遣（早稲田大学）
- 2024年9月5日「University of TSUKUBA Night 2024」を、米国ボストンCambridge Innovation Center (CIC)で開催（筑波大学）

スタートアップの成長を支援

- 東京大学
- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- 信州大学
- 筑波大学
- 東京科学大学
- 東京農工大学
- 横浜国立大学
- 神奈川県立保健福祉大学
- 東京都立大学
- 横浜市立大学
- 神奈川大学
- 芝浦工業大学
- 順天堂大学 等

- 2023年10月より開始した「東京都 多様な主体によるスタートアップ支援展開事業（SUTEAM）」を24年度も継続実施。25年度の延長申請を応募し、採択（慶應義塾大学）
- 大学発スタートアップを創出する地域プラットフォームInland Japan Innovation Ecosystem (IJIE) にてIJIE-GAPファンドプログラムを実施（信州大学）

エコシステム形成の土台を作る

- 東京大学
- 慶應義塾大学
- 早稲田大学
- 信州大学
- 千葉大学
- 筑波大学
- 東京科学大学
- 横浜国立大学
- 産業技術大学院大学
- 横浜市立大学
- 関東学院大学
- 芝浦工業大学
- 順天堂大学
- 東京理科大学 等

- 東京大学の学部生、大学院生、ポスドクを対象としたアントレプレナーシップ教育プログラムを実施（東京大学）
- 東工大（2024年10月以降は東京科学大学）発や、GTIE関係者発のスタートアップの他、VC・投資家、大企業、政府・公的機関、専門家（法律・会計・アクセラレーター等）が集結しイノベーションを加速させるためのインキュベーション施設の提供（東京科学大学）

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
東京大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様な民間企業からの支援を受けて、令和元年度から開始した主に本学の卒業生・研究者・学生を対象とした起業支援プログラムである「東京大学 FoundX」を実施した。 ② 「柏Ⅱキャンパス産学官民連携棟」(平成31年3月開設)にて、入居している研究室、生産技術研究所及びベンチャー企業が活動を開始した ③ 科学技術振興機構(JST)「大学発新産業創出基金 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 拠点都市プラットフォーム共創支援」(GTIE)2023年度採択(東京大学、早稲田大学、東京工業大学が共同主幹機関として実施) スタートアップ創出プログラム(GAP ファンド)のうち「海外市場開拓実践コース」の実施担当 ④ 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」2023年度採択 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「東京大学FoundX」 ・「Founder's program」 令和7年1月末までに累計73チームの応募があり、採択した40チームのうち既に27社が起業した。 ・「スタートアップ起業ゼミ」 令和7年1月末までに累計64名の応募があり、うち41名が採択となった。 ・「スタートアップ・スタジオ」 令和7年1月末までに累計17名の応募者から14名を採択した。 ② 「柏Ⅱキャンパス産学官民連携棟」での活動 インキュベーション施設入居企業数 1社 オープンラボ入居研究室 4研究室 など ③ 海外市場開拓実践コース：3件採択/応募4件 ④ 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」 シーズ発掘として事業化相談89件、調査支援として31件、知財出願支援として4件、事業開始支援を7件実施(1月31日現在) 	—	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M & A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
慶應義塾大学	○	○	○	<p>① 医学部：慶應医学部健康医療ベンチャー大賞 第8回 2024/12/15に開催（ビジネスコンテスト。学生リーグ、ウェルネスリーグ、創薬・SaMDリーグ、ヘルスケアシステムリーグがあり、書類審査、1次・2次審査を経て決勝まで進む。その間、各チームにメンターがついて併走しながら、事業計画等を指導する）。本戦の運営に加えて、過去出場者やヘルスケアスタートアップ業界の著名人をお招きしたトークイベントを開催（4/26 ALUMNI PARTY、7/18 ウェルネスリーグキックオフイベント、12/13 TECHNO-MALL特別セッション）</p> <p>② 理工学部：第25回慶應科学技術展「KEIO TECHNO-MALL 2024」（主催：慶應義塾先端科学技術研究センター（KLL）（慶應義塾大学理工学部・大学院理工学研究科・医学部・慶應義塾大学病院）を2024/12/13に開催。その企画の1つとして、起業志望学生によるビジネスコンテスト（KLL-ONE）を実施。KLL-ONEを通じて学生起業家を発掘・育成すると共に、新規ビジネスのスタートアップに関わる諸活動を短期集中的に支援。</p> <p>③ 理工学部・本部：科学技術振興機構GTIE (Greater Tokyo Innovation Ecosystem)に共同機関として参画。</p>	<p>① 参加者 総計応募160チーム（内、各リーグ優勝者は3チーム、学生部門決勝進出は3チーム）、後援6団体、協賛企業9団体、寄附・協賛金約900万円</p> <p>② KEIO TECHNO-MALL 2024は東京国際フォーラムで開催し、研究成果紹介のブース・パネル展示は109テーマ、来場者数は約1,500名。KLL-ONEには6チームが出場し、立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。</p> <p>③ GTIE GAPファンド2024 公募開始のお知らせを学内研究者向けに告知し、エクスプロールコース(R5 3/11締め切り)への応募1件を支援、採択後はEIRの公募支援や支援者(公認会計士)をつなぎ起業を支援した。エントリーコース(R6 11/11締め切り)では2件の応募を支援し、エクスプロールコース(R6 1/24締め切り)では4件の応募を支援した。</p>	<p>① 2024年度優勝したアイラト株式会社デジリハは、コンテスト参加時点で1.2億円超の資金調達に至り、開発推進や人材強化を推進中。</p> <p>② KEIO TECHNO-MALL 2024では出展者と来場者との面談の機会が設けられたと共に、連携相談窓口を通じて企業と研究者とのマッチングがなされた。KLL-ONEでは最優秀賞1組、優秀賞2組が選出された。</p> <p>③ GTIE GAPファンドエクスプロールコースへ応募支援したうち1件が採択され、2年間で6千万円という大型助成金の確保につながった。エントリーコースでは一件が採択され、500万円/9か月の助成金を得、事業化を推進している</p>	リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
慶應義塾大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ④ 本部：2023年度に導入した学内向け起業支援プログラム Keio Startup Incubation Program (KSIP)を通年実施。 ⑤ 医学部・本部：リサーチ＆インキュベーション施設「CRIK信濃町」の施設の企画、施工を経て2024年5月に開所。官庁や知自、金融、パートナー企業等を招待し開所式及び内覧会を実施。月々の入居審査、WEBサイトの公開、入居者や学内関係者、スタートアップの起業家や支援者を中心とした各種イベントを開催。 ⑥ 本部：2022年度に導入した慶應版EIR（客員起業家）制度を拡大。 ⑦ 本部：大学シーズの事業化を目指す研究者・起業家への支援資金プログラム（ギャップファンド：KSIP助成金）を開設。 ⑧ 本部：慶應義塾の知的財産の社会実装を目指すスタートアップに対して技術移転するためのガイドラインを整備 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 学内の有望な起業シーズとして、KSIPの支援対象を新規に2件採択し、累計9件の個別案件に対し集中的な事業化支援を進めている。 ⑤ 2024/5/29 CRIK信濃町の開所式に80人参加。イベントを16回開催。 ⑥ EIRの新規公募を実施。また過去に応募いただいた方や慶應の卒業生らを中心とした、慶應スタートアップのビジネス人材プログラムや支援者人材プログラムを開始・拡大した。 ⑦ タイプ1（事業化に向けた調査・予備検証：上限50万円）、タイプ2（事業化に向けた検証：上限400万円）の公募に対し、応募総数はタイプ1（4件）、タイプ1/2併願（3件）、タイプ2（7件）の応募を得た。 ⑧ 本学スタートアップ向け技術移転ガイドラインの新規制定と知的財産ポリシー・発明取扱規程の改正に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 採択した計9テーマのうち3件が法人設立、2社が投資家からの資金調達を達成。 ⑤ 25年4月より入会希望者からの応募を受付け、計29件（企業・個人）の入会を承認し計17件が入会済み（1月末時点）。 ⑥ 2024年度中に新たにEIRを1名採択。25年2月時点でビジネス人材248人、支援者人材123人の登録が完了。会社設立に向けた事業計画策定など具体支援いただき、1社法人設立を達成した。 ⑦ タイプ1：6件、タイプ2：5件を採択。各申請内容に応じた活動報告書を受領した。 ⑧ 25年1月に学内サイトに掲載公表した。 	リンク リンク リンク リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
早稲田大学		○		① ギャップファンドの実施	① JSTのSTART大学推進型事業の予算等を活用し、2022年度は5件の学内課題を採択し、PoC活動を実施して事業化の検証を行った。		—
茨城大学		○	○	① 「茨城県学生ビジネスプランコンテスト2024」を実施	① 応募件数：174件、ファイナリスト：8件、協賛企業数：10企業	① 茨城大学の学生はファイナリストには選考されなかったが、学部生のほか大学院生による応募も複数あり、学内での広がりが見られた	リンク
信州大学		○	○	① 大学発スタートアップを創出する地域プラットフォームInland Japan Innovation Ecosystem (IJIE) にてIJIE-GAPファンドプログラムを実施	① ステップ1 応募38件、採択18件 ステップ2 応募3件、採択2件	—	リンク
千葉大学		○		① 千葉大学 学生スタートアップ支援事業 ② 千葉大学GAPファンドプログラム「なのはなコンペ」 ③ 千葉大学スタートアップ・ラボの体制強化	① 公益財団法人双葉電子記念財団より青少年創造性開発育成事業の助成 / 応募総数 のべ11人 ② 3チーム採択（1チームあたり100万円の助成 + 4回のアクセラプログラム） ③ URA4名、EIR4名を新たに雇用	① アントレプレナーシップの醸成（プログラム受講生から起業、スタートアップ企業へ就職した学生）、JASIT M-BIPにおいて2チーム入選、1チームが企業賞受賞 ③ 学内アクセラレーションプログラムを経てGTIE-GAPファンドへ申請	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
千葉大学		○		① 千葉大スタートアップ・ラボによるスタートアップ創出・支援		④ 伴奏支援による資金調達 (Equity, Debt) の達成 (複数社) / 学生起業1社 / GTIE-GAPファンド エントリーコース申請5件うち採択1件	リンク
筑波大学		○		① ベンチャー起業相談室を運営 ② JST「START 大学・エコシステム推進型 大学推進型 (旧 SCORE大学推進型)」により、『筑波大学ベンチャー起業支援事業「つばさ」』(つばさ事業)として、研究段階から事業化段階へのステップアップや起業を目指す研究者を支援 ③ 「事業化促進プロジェクト」を実施し、民間企業との共同研究の促進や、ベンチャー創業や成長を支援 ④ 筑波大学発ベンチャーの称号付与 ⑤ 「第7回筑波大学発ベンチャーシンポジウム」を開催 (2024年12月13日開催)	① ベンチャー起業相談室において44件の相談に対応 ② 「つばさ事業」により6件の学内研究開発課題を支援し3社が起業 (うち2社は過年度支援) ③ 「事業化促進プロジェクト」に6件採択し支援 ④ 筑波大学発ベンチャーの称号を27社に付与 ⑤ 「第7回筑波大学発ベンチャーシンポジウム」に98名が参加	—	リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京科学大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 都内所在のスタートアップ企業等へ本学の保有する機器等を共有し、研究等の支援を実施 ② 本事業の利用拡大を図るためのプロモーションとして、共用機器見学会を開催する予定。(R6年度2月) ③ 科学技術振興機構(JST)研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(START) スタートアップ・エコシステム形成支援「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」実施中(2021-2025年度)。 ④ 「東工大発ベンチャー」称号授与制度(2024年9月で終了) ⑤ 「東京科学大学認定ベンチャー」称号授与制度(2024年10月、東京工業大学と東京医科歯科大学の統合に伴い、旧制度を終了し、新たに制定) ⑥ 教員・学生向け起業支援 ⑦ 東工大(2024年10月以降は東京科学大学)発や、GTIE関係者発のスタートアップの他、VC・投資家、大企業、政府・公的機関、専門家(法律・会計・アクセラレーター等)が集結しイノベーションを加速させるためのインキュベーション施設の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ② 要件を満たした15社に対して利用申請承認を出し、技術支援を実施 ③ GTIEに参画する大学・支援機関・事業会社等で協働しエコシステムを形成。参画機関108(主幹機関3、共同機関19、協力機関86) ④ 「東工大発ベンチャー」称号授与累計数174社(2025年9月末で制度終了) ⑤ 「東京科学大学認定ベンチャー」称号授与累計数189社(2025年1月末時点。旧大学発ベンチャーを含む) ⑥ 「資金支援」「起業支援ベース」「イベント」「客員起業家採用」「その他の起業支援」等の支援を実施 ⑦ スタートアップ24社、起業準備中の教職員14名、協賛企業2社、1大学(すべて2025年1月末時点) 	④⑤ 上場4社、M&A 1社	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京農工大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① JST「大学発新産業創出プログラム」GTIE (Greater Tokyo Innovation Ecosystem)への共同機関参加 ② 本学独自のGAPファンド「TAMAGO」を実施 ③ 学内プレシード/シードに対するインキュベーション各種支援 ④ 教員による起業支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデル検討、事業計画の立案支援 ⑤ 本学認定 TIATファンドによる起業支援 <ul style="list-style-type: none"> ・本学発SUの事業・資本・知財戦略立案の支援 ・出資 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本学からの応募数は8件。今後予定の3つのギャプファンドプログラム（エクスプロール、海外市場開拓、エントリー）に参加中。学内より8テーマの申請により3件の採択（1,500万円）。起業環境の整備として、本学発SUからのストックオプション受入れ規定、大学発SUとの共同研究ガイドライン等の新規支援策を導入 ② 本学発SU 4社につき認定 T U A Tファンドからの出資検討、累積6社へ出資完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPファンド：採択1チーム（1,000万円） ・TAMAGO：採択3チーム（各400万円） ・2022年度創業 大学発スタートアップ数：4社 ・新規大学発SU数 4社 ・資金調達総額 2.0億円 	リンク リンク リンク
横浜国立大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① 横浜国立大学ビジネスプランコンテストを開催 	予算・本選・審査員を合わせて40名（うち学外の実務家12名）	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
神奈川県立保健福祉大学		○		① 「神奈川県立保健福祉大学発ベンチャー」認定制度創設 ② 「神奈川県立保健福祉大学発ベンチャー」認定制度運用 ③ 大学院における講義の実施（アントレプレナーシップⅠ、Ⅱ）	5社認定	—	リンク
東京都立大学		○		① 金融機関の創業支援担当部署による「起業相談窓口」の開設 ② 大学等発ベンチャーの創出支援制度「社会実装化パッケージ」を創設	① 延べ8件対応 ② 「社会実装化パッケージ」活用による大学発ベンチャー創出1社	—	リンク リンク
横浜市立大学		○		① 大学発ベンチャー支援制度（平成29年度より）	<ul style="list-style-type: none"> 大学発認定ベンチャー数：11社 大学発ベンチャー数：1社 	大学発認定ベンチャー1社（株式会社CROSS SYNC）が累計調達額約6.6億円を達成	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
神奈川大学		○	○	① 横浜市「大学研究室発スタートアップ創出支援事業」と連携した学内研究者への起業セミナーを開催 ② 起業相談及び研究シーズの掘り起こし ③ 大学発ベンチャー認定企業と連携した広報活動の実施（プレスリリース等）	① 参加者6名 ② 1. 相談数約10件 2. 「Well-Fed」、「合同会社メンタルヘルスケア・ネットワーク」の2件を本学発ベンチャーとして認定 ③ 広報活動を支援、連携した本学発ベンチャーへ大企業等からの取引依頼・相談が5件	①参加者の内1名が起業することとなった。 ②学内においてベンチャー支援の機運が高まり、他研究者からの問い合わせが増え、現在4件の起業候補案件の発掘に繋がった。 ③他企業からの取引依頼等から1件大型の取引が内定した。	リンク
芝浦工業大学		○	○	① 起業に興味関心がある学生をさまざまなステージで支援する「SIT GRIT ² Program(エスアイティー・グリットスクエアプログラム)」を通して、学内外の学生や中高生向けに支援を実施。 ② インキュベーションマネージャーによる教員、学生へのスタートアップに向けた伴走支援を引き続き実施。		—	リンク
順天堂大学		○		① 医学系スタートアップの個別（ハンズオン）支援：5件 ② 起業に関する勉強会：2件 『事業立上げ時の事例紹介』『起業するまでのステップとそのリアル』 ③ 英国のスタートアップ支援プログラムとの情報交換 ④ イベント名：第2回 順天堂大学AIインキュベーションファーム主催プログラム～次世代医療エコシステムの形成を目指したAI Incubation Farm Partnersと順天堂大学共同研究シーズの紹介～ ⑤ イベント名：第3回順天堂大学AIインキュベーションファーム主催プログラム大学発スタートアップ創出に向けて ⑥ 産学官民連携促進のプログラム「AI Incubation Farm Partners」会員制度の開始 ⑦ スタートアップに対するアクセラレーションプロジェクト「JASTAR」をスタート（R5年度：第1期。R6年度：第2期） ⑧ オープンイノベーションの源泉となるネットワーキングイベント「Innovative Ideation HUB」の月1回開催（R5.11月～継続中）	① 起業：3件 ② 各回ともに数十名の参加（WEB） ③ 情報交換ができた ④ 参加者：328名 ⑤ 参加者：276名 ⑥ イベント件数12件、述べ参加人数100名以上 ⑦ 第1期 支援スタートアップ企業5社、第2期 支援スタートアップ5社。 ⑧ スタートアップ創出に向けたネットワーキングから共同研究に発展したケースあり。	①～③起業による研究費獲得・研究シーズ実用化に対する問合せが増加し、全体として機運が高まっている。 ④アカデミア1件との連携実施。⑤監査法人と連携し、次年度共催イベント3件実施予定。 ⑥研究者の起業精神の醸成。⑦資金調達数億円を達成した企業もあり。⑧異分野も交えたネットワークの広がりが作られつつある。	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学におけるスタートアップ創出支援の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
中央大学	○	○		① グローバル・イノベーションベースの設置 ② インキュベーションルームの整備	① 研究者2名が創業 (2022年度)	① 約4億円 (2022年1月時点)	リンク リンク リンク
東京理科大学		○	○	① 教員の研究成果に対する独自の学内Gap Fund(PoC助成金制度)を運用。 ② 学生アントレプレナーのビジネスアイデアに関するメンタリングや起業演習費支援を、東京理科大学インベストメント・マネジメント㈱に委託して運用。 ③ 大学認定スタートアップ制度を運用し、認定スタートアップを支援。 ④ 東京理科大学 産学連携機構の公式HP内に「スタートアップ創出&成長支援ページ」を拡充し、スタートアップに興味のある方・支援を受けたい方への情報をまとめ、学長・本学卒業生から起業を志す方へのメッセージ動画や、「起業ハンドブック」等を公開。 ⑤ 大学認定スタートアップによる東京都のアクセラレーションプログラムTTCP (Tokyo Technology Commercialization Program) への応募を支援し、2社が採択。 ⑥ 本学教員による独立行政法人工業所有権情報・研修館 (INPIT) の支援事業への応募を支援し、「大学等の研究成果の社会実装に向けた知財支援事業 (iAca)」に3名、「特許情報を活用した大学等の企業連携促進調査研究事業 (AC連携調査事業)」に2名が採択。	① 6名の教員を採択し (うち4名は、東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」の支援を受けて採択枠を拡充したもの)、1名あたり500万円を支給し、事業化検討やPoC構築を加速。 ② 2025年1月末時点で、メンタリングを延べ15件実施。また、起業演習費支援において7件の学生を採択し、計150万円を支給。 ③ 現役教員のスタートアップ14社 (うち1社は設立準備中/2025年1月末時点)、現役学生のスタートアップ2社を認定し支援中。 (「東京理科大学発(学生)スタートアップ企業」の称号使用許可、施設貸与など)	—	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① アントレプレナー道場 <ul style="list-style-type: none"> ・本学全学科の学部生、大学院生、ポスドクを対象としたアントレプレナーシップ教育プログラム ② アントレプレナーシップ関連授業 <ul style="list-style-type: none"> ・工学部「アントレプレナーシップ」 ・工学系研究科「Innovation and Entrepreneurship」、「バイオエンジニアリング演習」 ・1,2 年生対象全学自由研究ゼミナール ・新入生向けアントレプレナーシップセミナーほか約40科目 ③ Todai To Texas プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学関連のスタートアップや学生プロジェクトを、South by Southwest (SXSW) の展示会に派遣、出展 ④ 本郷テックガレージ <ul style="list-style-type: none"> ・学生が技術的なサイドプロジェクトを行なうための開発拠点 ⑤ 科学技術振興機構 (JST) 「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」(GTIE)2021年度採択 (東京大学、早稲田大学、東京工業大学が共同主幹機関として実施) 大学や研究所の研究者、企業の研究開発者および事業開発者向けのアントレプレナーシップ人材育成プログラムを担当 ⑥ 東京大学グローバル教養科目「Tokyo Forum 日韓学生アントレプレナーシップ交流プログラム」の新設 	<ul style="list-style-type: none"> ① アントレプレナー道場 登録者数397名 ② アントレプレナーシップ関連授業 ③ Todai To Texas プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・48名の応募があり8名を選抜してSXSWへ派遣。うち1チーム(4名)はSXSWピッチのファイナリストに選出され登壇。 ⑤ スタートアップ・エコシステム形成支援事業GTIEプログラム <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラム受講者数28名 ⑥ 東大生10名、韓国主要大学から10名の学生が参加し、日韓2名ずつの混成チームを5チーム組成し、学生間で徹底的に議論し、11月の東京大学主催国際会議Tokyo Forum ユースセッションの場で発表した。工学系研究科各務茂夫教授とソン・ジエ梨花女子大学教授が担当指導教員となってプログラム運営した。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 学内外からユースセッションは高く評価され、受講学生からの満足度も高く、2025年度以降も継続して取り組む計画となり、体制を拡充する予定。 	リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
慶應義塾大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① 本部：起業を志す学生・教職員・外部メンターなどの交流する場として躬行実践アントレサロンを実施（第5回：2024/4/19、第6回：2024/8/2、第7回：2024/10/28）、慶應義塾の目的のひとつ「躬行実践」を体現するイベントにより起業精神の醸成を図っている。 ② ASG慶應反分野的研究フォーラム「Scienc-Ome」【開催内容】全く異なる分野のアイデアの融合や人の交流から新たな科学的発展が生まれることを目的に若手研究者、学生(高校生を含む)を対象としたオンラインセミナー ③ 理工学部：理工学研究科にアントレプレナー育成講座（㈱慶應イノベーション・イニシアティブ寄附講座）を設置。履修者の一部はビジネスコンテスト（KLL-ONE）に出場する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加者は3回合計で120名 ② 会員数2,436名 ③ 履修者数27名（講座第1：14名、講座第2：13名） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 塾内の学生、教職員を主としたキャンパス横断型のアントレプレナーシップ活性化イベント。普段接する機会が少ない他学部、他キャンパスをつなぐコミュニティを醸成。令和6年度オープンしたインキュベーション施設CRIK信濃町のイベントスペースでの開催も2回実施し、学生のみならず、CRIK信濃町に入居しているスタートアップ企業や、三田会メンバーの方々など参加者の属性の幅が拡大した。 	リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
慶應義塾大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ④ 殿町：KEIO WIZARD "GLOCAL"を開催。身近な課題と世界の課題のつながりを理解して解決策を創り行動できるジュニアドクターを育成する。 ⑤ 大学院経営管理研究科：第10回KBS委員長杯を開催予定（2025/3/2）。委員長杯実行委員会（委員：大学院経営管理研究科在学生）により、毎年テーマを決めて学生を対象としたビジネスプランコンテストを開催。「学び×アイデア×○○」をテーマに開催。 ⑥ 大学院経営管理研究科：「起業家に学ぶ」を2024年度秋学期より開講。毎回日本を代表する起業家や起業家を支える方々をお招きし、パネルディスカッション形式で授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ ベーシックコース（41名）：2024年9月～2025年2月まで毎月1回、アドバンスドコース（9名）：2024年5月～2025年12月まで毎月1回。オンサイト（対面）とオンラインのハイブリッド型で開催。 ⑤ 経営管理研究科、健康マネジメント研究科、システムデザイン・マネジメント研究科、メディアデザイン研究科から登壇予定。 ⑥ 履修者数101名（経営管理研究科のみならず、理工学研究科、健康マネジメント研究科、システムデザイン・マネジメント研究科などからも履修あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 小中学生を対象に、アイデアを生み出し形にするプロセスを実践し、起業を意識した課題解決策を創り行動するための人材育成をおこなった。企業や自治体による会場や人材の協力、学内助成金の獲得に加え、2024年度は科学技術振興機構サイエンスカンファレンス「研究発表優秀賞」を2名が受賞した。 ⑤ 大学院経営管理研究科を起点とした学びの場の構築、そして新しいビジネスの事業化に繋がる機会となっている。 ⑥ 履修者のなかから、特に関心のある者が自主的な勉強会を開催するなど、アントレプレナーシップ醸成の重要なきっかけとなっている。 	リンク リンク リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
早稲田大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① JST「社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）」主幹機関として54機関が参加する「T-UNITE」を牽引。教員・指導者養成、ネットワーク担当 ② WASEDA-EDGE人材育成プログラムの実施 ③ 高校生以下のアントレプレナーシップ教育の組織的な展開 ・デザイン思考、リーンスタートアップ、エフェクチュエーションといった最先端の教育手法の活用、医療特化型ビジネスや地域創生等の課題解決型学習を採り入れたアントレプレナーシップに係る多彩な課外プログラムに取り組んだ。財団助成等を活用し、d.school講師によるデザイン思考ワークショップや、国際的な場でのビジネスアイデア発表、オンラインコンテンツの作成など、高校生向けアントレプレナーシッププログラムの充実に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京理科大学・東京農工大学・神奈川県立保健福祉大学発のアイデアを6件採択 ・FDプログラムについては、Babson大学との連携プログラムに全国14機関41名が参加。さらにリーンローンチパッドなどを組み合わせたインテンシブなFDプログラムには、29名の教員が参加 ・関連科目を含めると全学生の約1割の学生の履修を得た 	2023年3月時点で84億円の1号ファンドが創設され、2022年度中は3件の出資が実行。	リンク
茨城大学			○	① 「アントレプレナーシップ教育プログラム」を実施	<ul style="list-style-type: none"> ① 2024年度入門プログラム履修者数合計：237人 ・公共社会／アントレプレナーシップ入門Ⅰ111人 ・公共社会／アントレプレナーシップ入門Ⅱ102人 ・公共社会／アントレプレナーシップ入門Ⅲ24人 	① 地域未来共創学環では、これらの科目が必修化されたことを始め、アントレプレナーシップ教育が学内に定着してきた感覚がある	リンク
お茶の水女子大学			○	アントレプレナーシップの涵養を目指した以下5つの授業を開講した。 ① アントレプレナーへの道（DX演習PoC検証編） ② アントレプレナーへの道（DX演習製造業編） ③ リベラルアーツ演習Ⅰ ④ 総合コース（アントレプレナー） ⑤ アントレプレナー演習（DX演習－ドローン編） その他11科目のアントレプレナーシップの講義学生に向けて実施した	延べ166名	「総合コース（アントレプレナー）」の受講者が「もっと広い視野を持てるような授業・コミュニティ」づくりに自主的に動き始めている	リンク リンク リンク
信州大学			○	① 大学発技術系ベンチャー実践論	① 受講者8名	－	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
千葉大学			○	<p>【大学生/大学院生】</p> <p>① 大学院の4つのアントレプレナーシップ教育講義</p> <p>【高校生以下】</p> <p>① 導入教育のためのアントレプレナーシップ教育プログラムの改善および普及活動</p> <p>② 「起業体験プログラム（TOKKA）」の小中高生への探究プログラムへの展開（公教育への定着）</p> <p>③ 西千葉こども起業塾</p> <p>④ 高校生等へ持続的にアントレプレナーシップ教育プログラムを提供する体制の構築</p>	<p>【大学生/大学院生】</p> <p>① スタートアップ概論A：25名、スタートアップ概論B：28名、スタートアップ・トレーニングⅠ：10名、スタートアップ・トレーニングⅡ：6名</p> <p>【高校生以下】</p> <p>① 小中高生3,296名受講</p> <p>② 小中高生2,341名受講</p> <p>③ 小中学生：30名受講</p> <p>④ 326名受講、千葉県内の教育をテーマとした2つのコンソーシアムと千葉県・千葉市教育委員会との連携</p>	<p>【大学生/大学院生】・アントレプレナーシップの醸成（プログラム受講生から起業、スタートアップ企業へ就職した学生）</p> <p>【高校生以下】</p> <p>・5つの導入教育のためのプログラム：小中高生3,296名受講</p> <p>・6つの社会実装を目指した体験プログラム：小中高生2,341名受講</p> <p>・次年度以降の教員研修等機会の確保</p>	リンク
筑波大学			○	<p>① 「次世代起業家養成講座」を学部生向けの授業科目として実施</p> <p>② 「起業家のための経営・知財必須知識」を学部生向けの授業科目</p> <p>③ 「筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック」を学部生向けの授業科目</p> <p>④ 「筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンス」を大学院生向けの授業科目</p> <p>⑤ 「つくばアントレプレナー育成プログラムBizDev講座」をつくばの研究機関の研究者等を対象に実施</p> <p>⑥ 「起業力ビルドアップ講座」を学内の研究者向けに実施</p>	<p>① 88名受講</p> <p>② 58名受講</p> <p>③ 25名が受講</p> <p>④ 22名が受講</p> <p>⑤ 37名が受講</p> <p>⑥ 12名が受講</p>	—	—

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京科学大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① アントレプレナー育成プログラム 医療、ライフサイエンス、データサイエンス等の専門性を持った学部学生、大学院学生、社会人を対象。「ビジネス、デザイン、データサイエンス/デジタル」の3領域の講義科目、実習科目で構成されており、起業や新規事業開発に必要な事業構想力の養成を目的としている。 ② 医療DXイノベーション人材育成プログラム デジタル技術を駆使した医療課題の解決や産業創出に資するイノベーション人材の輩出を目指し、大学教員や事業開発の専門家等で構成されるメンター伴走的なサポートのもと、実際にアプリケーションやサービスなどのプロトタイプ開発に取り組む ③ 大学院の特定プログラムにおいて、アントレプレナーシップ論、デザイン思考、経営管理論等を実施 ④ 社会人向けに技術経営等を学べるプログラムを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① アントレプレナー育成プログラム 2024年10月～2025年3月（予定）に入門コース71コマを実施し、19名（学部学生13名、修士学生3名、初期研修医3名）が受講、標準コースは90コマを実施し、41名（博士学生14名、社会人27名）が受講している。受講料収入は4,455,000円であった（受講者のうち学部生および大学院生およびポスドクは受講料無料）。 ② 医療DXイノベーション人材育成プログラム 2024年8月に開講し、13名（大学・公的機関10名、企業3名）が受講する10チームに対して、延べ51回のメンタリングを行った。なお、経済産業省から事業費全額の補助が得られたため、受講料は徴収しなかった ③ 大学院生向けプログラム：実践型アントレプレナー人材育成プログラム（PEECs）、リーダーシップ教育院（ToTAL） ④ 社会人向けプログラム：キャリアアップMOT（技術経営）（CUMOT）、Technology Creatives Program（通称：テックリ） 	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京農工大学			○	① 講義の実施「アントレプレナーシップ入門」(学部生対象)、「アントレプレナーシップ応用」(大学院生対象)、「デザイン思考(日・英)」(全学対象) ② 学生チームによるアクティブラーニングスペース「テックガレージ」の整備(技術やテクノロジーを元に学生自ら考える課題やニーズに応えるプロダクト作り、ビジネスモデルの構築に挑戦するプロジェクト活動) ③ 研究成果の事業化プランコンテスト「アントレプレナーチャレンジ」の実施 ④ アントレプレナーシップ教育(醸成・コンピテンシー・社会実践) ⑤ 学内ビジネスコンテストの実施	① 農学部・工学部 学部生及び大学院生向け集中講義を開催 ② 2025年3月10日開催予定 ③ 学内10チームの公募、6チーム採択、2025年2月20日報告会開催予定 ④ 計65名が受講。 ⑤ 12チーム(24名)参加。優勝賞金100万円。	アントレプレナーシップに関する独自教材による教育プログラムの組成及び専門教員1名の配置	リンク リンク リンク
横浜国立大学			○	起業家養成講座を開講 ① 入門編3回、 ② 海外メソッドに学ぶ新規事業創出5回 ③ イノベーター養成講座5回 ④ デザイン思考とUX概論 ⑤ イノベーション養成講座5回 ⑥ 若手起業家の経験談を聴く	延べ849名	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
神奈川県立保健福祉大学			○	① 大学院における講義の実施（アントレプレナーシップⅠ、Ⅱ） ② 地域の小学生に対し、地域における科学イベントと一環としてデザイン思考ワークショップを実施 ③ 地域の中学生に対して「GTIE（Greater Tokyo Innovation Ecosystem）」の活動紹介とともに、在学中に起業した学生から起業の活動などを紹介し、中学生と意見交換 ④ 地域の小学生に対し、地域における科学イベントと一環としてデザイン思考ワークショップを実施 ⑤ アントレプレナーシップ理解作成のための小冊子（漫画）作成、中学校にて2回ワークショップを開催 ⑥ 地域の中学生に対しての活動紹介とともに、在学中に起業した学生から起業の活動などを紹介し、中学生と意見交換	① 学生25名参加 ② 31名参加 ③ 120名参加（起業した学生との意見交換はうち40名 ④ 49名参加 ⑤ 119名参加 ⑥ 40名参加	—	リンク リンク リンク リンク リンク
東京都立産業技術大学院大学			○	① 「東京テックイノベーションプログラム」の実施 ・起業に挑戦するシニア層のための学びの場として、起業に必要な知識及びスキルを短期間で修得できるよう、大学院教育（修士課程）レベルでの学び直しを推進（履修証明プログラム） ・開講期間：R6（2024）年10月～R7（2025）年2月 ・定員20名程度、概ね40歳以上を対象	・シニア層を対象にしたリカレント教育プログラムを実施（講義・演習型科目、事例研究型科目、PBL型科目、企業見学等） ・受講者：6名	・H30(2018)年度から継続実施している事業であり、シニア層が起業・創業・事業継承等に必要な知識スキルを短期間で修得できる場を提供	リンク
東京都立大学			○	① 「起業キックオフイベント」全4回開講 ② 「起業ステップアップイベント」2日間開講 ③ キャリア教育科目「アントレプレナーシップ入門」の開講 ④ 学生を対象としたビジネスアイデアコンテスト等の「TMU EntreBloom Program」の開催（講演会等のプレイベント6回、コンテスト、海外研修を実施）	① 「起業キックオフイベント」83名参加 ② 「起業ステップアップイベント」16名参加 ③ 科目履修者22名／プレイベント参加者延べ113名／コンテスト応募者109名、本選会出場者33名	—	リンク リンク
横浜市立大学			○	① ①学部生向けの授業科目として、「横浜市立大学領域横断型プログラム（起業家育成プログラム）」を実施 ② ②学内の研究者、学生及び学外への公開セミナー「大学発スタートアップ創出ナビゲーションセミナー」を全11回予定で開催	① 参加者数：165名 ② 参加者数：延べ999名（R6年度1月末日時点）	—	リンク リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
神奈川大学			○	① チェンジメーカーズコミュニティ（社会起業家がメンターとなり、学生が各々起業や世の中に変化をもたらすことを目的として活動するコミュニティ）の運営 ② 神奈川地域創生プロジェクト（社会起業家が伴走し、神奈川県内の自治体をフィールドに街を魅力化するアイデアを考えるプログラム）の開催 ③ 起業家トークライブ（学内外の学生起業家と、社会起業家、次世代イノベーター団体代表を招き、起業に関する講演や参加者とのトークセッションを行う会）の開催 ④ 起業体験・情熱発見ワークショップ（社会起業家が講師となり、起業家に必要な自分のやりたいことや情熱を見つけるワークショップ）の開催	① 学生計32名が参加 ② 平塚市・大磯町を対象とし、学生計18名が参加後日、参加学生団体と平塚市でワークショップを開催 ③ 学生起業家計6名、団体の代表1名によるトークライブに、計約50名の聴講生が参加（聴講学生のうち6名が翌年度チェンジメーカーズコミュニティに参加） ④ 学生計11名が参加（2名は翌年度チェンジメーカーズコミュニティに参加）	本項全体の結果として、チェンジメーカーズコミュニティ参加学生のうち1名が起業、1名が活動団体を立ち上げた。	リンク リンク リンク リンク
関東学院大学			○	① 2024年度秋学期公開講座 社会人の学び直し03 ② 55歳からの起業チャレンジ自分のやりたいことを見つけるワークショップ	① 受講者数21名	—	リンク
芝浦工業大学			○	① 本学主催のビジネスピッチイベント「芝浦ビジネスモデルコンペティション（SBMC）」を開催、SBMC応募者向けに、各種ワークショップを実施。 ② 附属校、併設校、連携協定校の中高生を対象にビジネスピッチイベント「SBMC Juniorビジネスアイデア発表・交流会」を開催。 ③ 附属校、併設校、連携協定校の中高生を対象にスタートアップ企業やインキュベーション施設の視察を実施。 ④ 学内外向けイベント「アントレプレナー連続実践講座（全5回）」を開催。	① 311名 ② 36名 ③ 45名 ④ 150名	—	リンク リンク リンク
順天堂大学			○	① 起業相談会の開催（R6年度 3回）	各回に10名から15名の参加者。	参加者から起業における土業の役割について理解が深まった等のフィードバックもあり起業に向けた気風の醸成が高まってきた。	—

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：地域の大学における起業家教育の取組

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
中央大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① 教育プログラム（授業）の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルアントレプレナーシップ入門 ・グローバルアントレプレナーシップ演習 ・ビジネスプロジェクト講座 ② 教育プログラム（短期留学）の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・カリフォルニア大学デビス校 ・シリコンバレー ・インド ・インドネシア ・グローバルインターンシップ 他 	約150名が履修		—
東京理科大学			○	<ul style="list-style-type: none"> ① 学部横断型の正課授業（一般教養科目）として、アクティブ・ラーニングを取り入れた「イノベーション&アントレプレナーシップ概論」を開講。 ② JST「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に採択され（2021年度～）、博士学生を支援する「イノベティブ博士人材育成のための共創力強化プロジェクト」内において、「イノベーション基本理論講座」（全4回）を実施。 ③ 2025年1月末時点で、東京理科大学インベストメント・マネジメント(株)にて、起業家講演、セミナーを2件開催。また、2月に教員・学生を対象とした学内ビジネスコンテストを開催予定。 ④ 起業マインドの醸成・風土作りのため、主に起業経験者の実体験などを体感できるe-learningを提供中 	<ul style="list-style-type: none"> ① 計300名の学生が履修。 ② プログラムを受講する博士学生のうち、2024年度は24名が「イノベーション基本理論講座」を受講。 ③ 延べ88名の教員・学生等が参加。 ④ ④起業を目指す教員・学生等に、50ライセンスを適宜提供。 	—	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様な民間企業からの支援を受けて、令和元年度から開始した主に大学の卒業生・研究者・学生を対象とした起業支援プログラムである「東京大学FoundX」を実施した。 ② 千葉県・柏市と共に柏の葉地域における新規産業の創出に取り組む「産学協創プラットフォーム拠点」として、本学のインキュベーション施設、オープンラボ及び生産技術研究所附属価値創造デザイン推進基盤との合築で整備された「柏Ⅱキャンパス産学官民連携棟」(平成31年3月開設)について、入居している研究室、生産技術研究所及びベンチャー企業との活動を開始した。インキュベーション施設では、東京大学の研究・教育成果の事業化・実用化を目指す個人及び法人に対して起業環境を提供している。オープンラボでは、地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金を活用した地域科学技術実証拠点として、企業や自治体等と連携して、新規産業創出を目指す共同研究等を行っている。 ③ 科学技術振興機構(JST)「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」(GTIE)2021年度採択(東京大学、早稲田大学、東京工業大学が共同主幹機関として実施)アントレプレナーシップ教育プログラム開催 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「東京大学FoundX」・「Founder's program」令和7年1月末までに累計73チームの応募があり、採択した40チームのうち既に27社が起業した。 ・「スタートアップ起業ゼミ」令和7年1月末までに累計64名の応募があり、うち41名が採択となった。 ・「スタートアップ・スタジオ」令和7年1月末までに累計17名の応募者から14名を採択した。した。 ② 「柏Ⅱキャンパス産学官民連携棟」での活動 インキュベーション施設入居企業数 1社 オープンラボ入居研究室 4研究室 など ③ 「大学・エコシステム推進型スタートアップ・エコシステム形成支援」(GTIE) ・GTIEアントレプレナーシップ教育プログラムの参加者数28名 	—	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等）	参考URL
	①	②	③				
慶應義塾大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① 本部：東京大学協創プラットフォーム開発株式会社が主催する起業支援プログラム「1stRound」の第11回（4月公募、6月採択）、第12回（10月公募、12月採択）に、本学も共催機関として参加 ② 本部：2023年10月より開始した「東京都 多様な主体によるスタートアップ支援展開事業（SUTEAM）」を24年度も継続実施。25年度の延長申請を応募し、採択。 ③ 本部：2024年1月より開始した「東京都 大学発スタートアップ創出支援事業」を2024年度も継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 本学関連チームの応募数は、第11回は66チーム、第12回は65チームと、昨年を上回った。 ② SUTEAM事業において、2024年度末までの起業支援に関わる各種KPI（法人設立・資金調達数やコミュニティ構築）を設定し、2024年度のKPIを集約、報告。25年度延長申請に関し、追加の取組をKPIに盛り込み申請。 ③ 学内ギャップファンドの設置、および起業プロセスの課題解決を目的とした事業を開始。2024年度は、調査や企画準備、KSIP助成金に関してKPIを設定し、2024年度のKPIを集約、報告。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 採択後はハンズオン支援および各社最大1,000万円の活動資金の提供、コーポレートパートナーとの協業機会の創出等を受けられる。第12回は本学関連の2チームが採択された。 ② 2024年度のSUTEAM事業で設定した中間アウトカムである、事業計画の策定：7チーム、チーム構築：3チーム、初期資金の獲得：5チームを達成した。またその結果として、最終アウトカムに設定したスタートアップ設立：3社、資金調達：2社を達成した。 ③ 学内ギャップファンドを新設し、計11シーズを採択した。加えて、原資を確保するためのスタートアップ支援資金の設置の検討を進めている。起業関連プロセス（知財、技術移転、利益相反など）の見直しを行い、改善策を策定した。さらに、知財ポリシーの改定やスタートアップ向け技術移転ガイドラインの設定を行った。 	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等）	参考URL
	①	②	③				
慶應義塾大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ④ 医学部・病院・本部：AMEDの橋渡し研究プログラム（大学発医療系スタートアップ支援プログラム）における医療系スタートアップ支援拠点に採択。2024年10月より事業開始。 ⑤ 本部：2024年12月 産学連携協力・スタートアップ創出支援に関する株式会社三井住友銀行による協定を締結。 ⑥ 殿町：はまぎん財団助成金事業：第5回 技術シーズの社会実装化助成金はまぎん財団 Frontiersを実施（後援：横浜銀行、協力：川崎市産業振興財団、慶應義塾大学）、ヘルスケアやIT分野の新技术に関連したビジネスアイデアを募り、総額で最大1,600万円を助成。 	<ul style="list-style-type: none"> ④ 臨床研究推進センターとイノベーション推進本部が中心となり「慶應義塾スタートアップ推進拠点（Keio Biomedical Accelerator）」構築による革新的医療シーズの早期社会実装と、大学発スタートアップ・エコシステムの創成」の応募が採択され、スタートアップ支援のためのシーズ選考や基盤構築の着手を開始。 ⑤ 研究成果の社会実装に向けたシーズの事業化や活性化、スタートアップ創出・成長促進に向けた事業サポート支援、スタートアップ・エコシステムの構築に関する三井住友銀行からの支援が提供される。 ⑥ はまぎん財団助成事業第5回の審査について、2025年2月28日に最終選考会を開催予定。慶應義塾関係者も審査に関わる予定 	<ul style="list-style-type: none"> ④ シーズS2の公募を開始、現在選考中。拠点基盤を推進するためのメンバー6名を増員した。 ⑤ KSIP採択チーム数社に対するビジネスマッチング支援に関する協議を開始。 	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
早稲田大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 「早稲田大学ベンチャーズ（WUV）」による出資（早稲田大学） ② 高校等におけるアントレプレナーシップ教育の展開に係る自治体・民間企業との連携（早稲田大学） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 早稲田大学の研究成果を活用したベンチャーの創出を更に加速させるために創設した冠ベンチャーキャピタルの下、大学発スタートアップへの出資が行われた。（早稲田大学） ② 高校以下のアントレプレナーシップ教育充実に向けて、高校教員向け研修プログラム（2024年12月25日）や高校教員米国研修派遣（2025年3月予定）を実施した。 	—	—
お茶の水女子大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 東大IPC（スタートアップ支援企業）と令和7年度から同社が提供する、1stRoundというプログラムに本学が参加できるよう準備を進めている。 ② 神奈川サイエンスパーク（KSP）が提供するスタートアップ支援のDEEPTech STUDIOプログラムに教員1名が参加し、起業の検討を進めている。 		—	—
茨城大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① 「茨城ベンチャーフレンドリー宣言」への賛同（2024年2月29日発出） ② 「IBARAKI TECH PLANTER 2024」を後援 	<ul style="list-style-type: none"> ① 行政と民間経済団体が連携して発出するのは、全国初 ② 20件の応募チームの中から9チームがファイナリストとして選出 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2023年度は、本学関係者の1チームがファイナリストとして選出された。 ② 2024年度は、本学関係者はファイナリストとして選出されていないが、後援組織として地域での機運醸成に努めている 	リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
信州大学		○	○	① 大学発スタートアップを創出する地域プラットフォームInland Japan Innovation Ecosystem (IJIE) にて自治体やVCも参加するキックオフシンポジウム、全体会議を実施	① 計389名	—	リンク
千葉大学		○		① 千葉大学IMOにて産学連携ジェトロデスクを実施 ② カナダ・トロントメトロポリタン大学併設インキュベーターDMZ訪問 ③ ジェトロ千葉、千葉市と共にカナダ・トロントメトロポリタン大学併設インキュベーターDMZとスタートアップ支援プログラム「千葉から世界へスタートアップ・グローバル展開プログラム2024」実施 ④ 千葉市アクセラレーションプログラムC-CAP課題解決講座を千葉大学IMOを会場として実施 ⑤ 筑波大学等と連携してResearch Studio 2024（医薬系アクセラレーションプログラム）を実施 ⑥ 墨田区SIC（墨田区アクセラレーション施設） ⑦ 日本政策金融公庫千葉支店と千葉大学IMOが覚書締結	② 千葉市：3名 ③ のべ124名参加 ④ 20名参加 ⑤ 筑波大学を主幹として千葉大学、慶応義塾大学、大阪大学、岡山大学、九州大学が連携して実施	千葉圏内イノベーションエコシステムの形成	リンク リンク
筑波大学		○	○	① つばさ事業において（一社）TXアントレプレナーパートナーズ（TEP）と連携 ② 東京大学協創プラットフォーム開発（株）が主催するコンソーシアム型インキュベーションプログラム「1stRound」に共催	② 「1stRound」に本学から34件の応募があった。	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京科学大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① Greater Tokyo Biocommunity (GTB)関連 ② 「東工大横浜ベンチャープラザ (YVP)」を中小企業基盤整備機構及び横浜市と共同して設置。2024年10月、東京工業大学と東京医科歯科大学の統合に伴い、施設名称を「Science Tokyo 横浜ベンチャープラザ」に変更。 ③ 「GAPファンド」を芙蓉総合リース株式会社及び株式会社みらい創造機構と共同で運用。 ④ 東工大（2024年10月以降は東京科学大学）が連携するベンチャーキャピタルみらい創造機構の「認定ファンド」に出資。 ⑤ 東京都による「多様な主体によるスタートアップ支援展開事業」及び「大学発スタートアップ創出支援事業」を実施中（2023-2024年度） 	<ul style="list-style-type: none"> ① GTB域内活動を共にする会員間のコラボレーション推進やネットワーク形成促進のため国内・国際イベントへの出展・交流会等を開催 ② 居室は26室で全て実験室タイプ。東工大（2024年10月以降は東京科学大学）と関連した企業が4社入居（2025年1月末時点） ③ 過去7年間で21件支援を実施。 ④ 「みらい創造二号投資事業有限責任組合」に、文部科学大臣の出資認可を受け、2023年12月に大学から第1回目の出資。 ⑤ 教員向けGAPファンド支援、学生向け起業支援、成果発表イベント等を実施していく 	—	リンク リンク リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
東京農工大学		○	○	① イノベーションリーダーサミットへの参加 ② 民間VCとの連携による大学認定ファンドの設立 ③ 小金井市、中小機構との連携によるスタートアップ支援	① 大手企業4社から面談依頼あり1社と共同研究契約を締結。 ② 民間VC BPキャピタル(株)との間で認定ファンド設立申請契約を締結。 ③ 新たな入居審査にURAが参加、また小金井VPのチーフインキュベーションマネージャに本学URAC運営会議に参加して頂き定期的に情報交換している	イノベーションガレージの新設を含め本学キャンパス内に、プレシードからレイターステージまでの一気通貫でのスタートアップ支援設備及びそれに伴う支援組織の整備を完了。尚、Exitを睨んだ資金調達に関しては上述の大学認定ファンドによる支援も予定。	リンク リンク
横浜国立大学		○	○	① GTIE-GAPファンド：10月にST大学発新産業創出基金スタートアップ・エコシステム共創プログラムに協同機関として正式参画。 ② 「はまぎんYNUベンチャー支援基金」を設置：採択者を決定（8名応募）。 ③ KSP DEEPTech STUDIO第2期事業化検討プロジェクト等への参画と支援。	① 審査通過1件 ② 今後のNEDO連携協定と連携して、提案内容のブラッシュアップ等の支援を検討	—	リンク
神奈川県立保健福祉大学	○		○	① 病院経営プログラムの受講者受入れ（タイ マヒドン大学）	① 30名参加	—	リンク
東京都立大学		○	○	① 多摩地域の自治体・公的機関・金融機関等と、起業予定者や起業後間もないベンチャー等に対する多様なサービス・支援の展開に向けた連携のあり方について意見交換を行った。 ② イノベーション創出を促すために立ち上げたプラットフォームである「TAMA-LEAP」の参画機関や地域の商工系団体等との意見交換を行った。 ③ 「TAMA-LEAP」参画機関を大学でのアントレ・スタートアップ関連イベントへの招待	・自治体、金融機関、創業支援機関、商工会、商工会議所等と、スタートアップ創出・支援に関する意見交換実施 ・ビジネスアイデアコンテスト、教員によるピッチイベントへ「TAMA-LEAP」参画機関が参加。	—	リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
横浜市立大学		○		① 横浜市「大学研究室発スタートアップ創出支援事業」の連携・協力大学として参加	起業シーズ候補2件とヒアリング	—	—
神奈川大学		○	○	① YOXOアントレプレナー育成プログラム（横浜未来機構と横浜市内4大学の連携による、中堅若手社員向けに、事業の創造に必要な基礎知識と手法を提供するプログラム）の開催 ② YOXOカレッジ（横浜市内4大学と企業・行政が連携した、オンラインを中心としたイノベーター育成のためのプラットフォーム）に生涯学習講座等を提供	① 26名が受講、23名が修了 ② 6件を提供	—	リンク
関東学院大学		○		① 第3回三浦半島地域実践型創業塾		—	リンク
芝浦工業大学		○		① R5年度採択された、中小企業基盤整備機構のインキュベーションプログラム強化・発展事業によるインキュベーションマネージャー派遣の受け入れを今年度も継続実施。		—	—
順天堂大学		○	○	① MEDISO（厚労省委託）との連携 ② イベント名：順天堂大学発！AI Incubation Farmの2025年に向けた展望 ～幸福100年社会の実現に向けた次世代医療エコシステムの構築に向けて～ ③ ③イベント名：ECOSYSTEM INSIGHT Powered by KPMG 順天堂大学におけるイノベーション・エコシステムの取組み ～次世代医療エコシステムの構築に向けて～ ④ 東京都大学発スタートアップ創出支援事業（事業推進型）に採択（R6.1～R7.3） ⑤ 経済産業省の地域オープンイノベーション選抜拠点制度（J-Innovation HUB）の拠点として採択（R5.10～R8.3）	① 窓口業務の整理とすり合わせ ② 参加者：407名 ③ オンライン開催 ④ 起業支援5件、事業推進に必要なPOC支援5件、土業の方を招いての起業相談会3回 ⑤ 拠点間の研修を通してOIST INNOVATIONがaif-Partnersに加盟。また、大学の知財活用アクションプラン該当支援メニューの活用	① 相談対応における連携の業務フロー化により体系的に相談対応が実施できるようになった ② アカデミア1件との連携実施 ③ 監査法人との連携 ④ スタートアップ1件創出。また、起業予定（希望も含む）6件の支援継続中 ⑤ 特許庁INPITのiAca事業に採択され、スタートアップ創出支援の推進を図ることができた	リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：大学と地方自治体、民間スタートアップ創出・支援に関する連携

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
中央大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 文部科学省、東京都と連携した「グローバルアントレプレナーシップ」キックオフシンポジウム開催 ② 東京都との連携（出講、創業支援など） ③ 中小機構との連携（出講、創業支援など） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 約250名参加（シンポジウム） ② 出講5回 ③ 出講2回 		リンク
東京理科大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 東京都「大学発スタートアップ創出支援事業」（事業化促進型）に採択され、活動中。（2023年度～）東京理科大学インベストメント・マネジメント㈱との共同応募。 ② JST「大学発新産業創出基金事業スタートアップ・エコシステム共創プログラム」で採択された「Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)」に本学がスタートアップ創出共同機関として参画中。（2023年度～）また、東京理科大学イノベーション・キャピタル㈱が、GTIE事業化推進機関候補として採択中。（2023年度～） ③ 東大IPC主催の1stRoundに共催機関として参画中。（2023年度～） ④ 東京都が運営するインキュベーション施設Tokyo Innovation Baseに、TIBパートナーとして参画中。 ⑤ 新宿区と共催し、「新宿ビジネスプランコンテスト」のキックオフセミナーを実施。（2024/6/6） ⑥ 亀有信用金庫と共催し、葛飾区内の創業予定者等を対象とした創業塾（本学学生も参加可）を実施。（全6回） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 活動成果として、2025年1月末時点で、学内に埋もれるシーズの発掘と顕在化60件、教員・学生による事業化8件等を達成 ② 「GTIE GAPファンド2024 エントリーコース」に教員3名、学生1名が採択され、1名あたり650万円を獲得。 ④ Tokyo Innovation Baseを会場としてピッチイベント（qcp Startup Pitch 2024）を開催。44名の教員・学生・新宿区民がキックオフセミナーに参加。また、本学学生2名がビジネスプランコンテストにエントリーした。学外者32名が受講。 	—	リンク リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップ支援の中心となる施設・場の設置

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等）	参考URL
	①	②	③				
慶應義塾大学		○	○	① 医学部・本部：リサーチ＆インキュベーション施設「CRIK信濃町」の施設を2024年5月に開所し運営している	① 2023/5/29 CRIK信濃町の開所式に80人参加。イベントを16回開催	25年4月より入居希望者からの応募を受付け、計29件（企業・個人）の入会を承認し計17件が入会済み(1月末時点)	リンク
茨城大学		○	○	① 公益財団法人 日立地区産業支援センター ② 株式会社ひたちなかテクノセンター			—
千葉大学		○	○	① 千葉スタートアップラボを設置	—	学内スタートアップ支援/アントレプレナーシップ教育体制の強化	—
東京科学大学		○		① 本学の実験共通機器やオープンラボの設備に加え、アーリーシードの企業を対象に「実験台」単位で利用できるシェアラボスペースを経産省地域の中核大学等のインキュベーション・産学融合拠点の整備事業にて2023年度中に整備をし、2024年4月よりスタート ② 田町キャンパスのキャンパスイノベーションセンター2～4階にインキュベーション施設「INDEST（Innovation Design Studio：インDEST）」を設置。東工大発や、GTIE関係者発のスタートアップの他、VC・投資家、大企業、政府・公的機関、専門家（法律・会計・アクセラレーター等）が集結しイノベーションを加速させる場として東京工業大学が運営を行っている	① オープンラボ：入居率80% シェアラボ：入居率100% ② 2023年度末に整備は完了し、現在の入居状況は以下の通り。 ③ スタートアップ24社、起業準備中の教職員14名、協賛企業2社、1大学（すべて2025年1月末時点）	—	リンク リンク
東京都立大学		○		① 多摩地域の産業と密接に連携し、研究成果から産業化へと橋渡しするためのハブとして、また研究機器共用センターやインキュベーションルームなど地域に開かれた社会意義の高い施設として、産学公連携スペース「TMU Innovation Hub」の開設準備を行う。	① 2023年10月開設に向け準備	—	リンク
横浜国立大学		○		① 11月オープンしたスタートアップ支援拠点「TECH HUB YOKOHAMA」にパートナー団体として登録を完了。	—	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップ支援の中心となる施設・場の設置

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
関東学院大学		○		① 横浜・関内キャンパス4階にコワーキングスペース・シェアオフィス「AGORA KGU Kannai」の設置（令和5年度～）	① 1名個室（18室）、2名個室（4室）ともに満室	—	リンク
芝浦工業大学		○		① バイエリア・オープンイノベーションセンター（BOiCE）の産官学民連携ラボにおいてウエットラボ5室を増設。		—	—
順天堂大学		○		① R7年4月にオープンイノベーションラボラトリーをオープン予定	—	—	リンク
東京理科大学		○		① 東京理科大学インベストメント・マネジメント(株)にて、東京都認定インキュベーション施設 quantum cross pointを運営中。 ② 東京理科大学にてインキュベーションルーム/産学試作開発室を運営中。	① quantum cross pointに350件以上の企業・個人事業主が登録、700名以上がオフィス利用中。30社以上のパートナー企業と連携中。 ② 5社（内、2社は共同入居）が利用中。	① quantum cross pointの入居者は累計75億円以上の資金調達を実施。 ② 本学教員と入居企業間での技術連携を実施。	リンク リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップや支援者の交流する場

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 東京大学産学連携プラザ（本郷） ② 東京大学アントレプレナープラザ（本郷） ③ 東京大学南研究棟（本郷） ④ 東京大学産学官民連携棟（千葉県柏市） ⑤ 東京大学駒場連携研究棟インキュベーションルーム 	—	—	—
慶應義塾大学		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① リサーチ&インキュベーション施設「CRIK信濃町」の施設にてスタートアップの起業家や支援者を中心とした活動や各種イベントを開催。 ② 理工学部：慶應義塾大学矢上イノベーションラボラトリー（YIL）を建築中（～2025年3月31日までに完成）である。本施設は、産学連携、イノベーション、スタートアップの交流の場として運営する予定である 	① CRIK信濃町に入居するスタートアップが主催するイベント、慶應でスタートアップ起業を目指すチームと支援者側とのミーティングや交流イベントなどを開催している		リンク リンク
茨城大学		○		① ものづくり企業とベンチャー企業と研究者たちの交流会 in つくば（茨城県・つくば市・TCIが主催）		① 2023年度での交流をきっかけとして、日立建機との連携協定の締結につながった	リンク
千葉大学		○		① 千葉スタートアップラボ	—	① 学内の学生起業サークルや地域金融機関、自治体のスタートアップ支援のイベント・勉強会を開催	—

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップや支援者の交流する場

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京科学大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① Wednesday4meetup ② LUNCHMEETUP ③ 東工大（2024年10月以降は東京科学大学）が運営するINDESTにて、入居者同士の交流会や、支援者とスタートアップが交流する場を設置。また、2024年10月にはイノベーションデザイン機構の関係者が集うSlackを作成し、コミュニティ形成に注力した 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「Wednesday4meetup」 2024年度4回実施。本イベントの実施により、学内連携や異業種間連携が増えたことで、既存の共同研究だけでなく新たな分野とのコラボレーションも増加 ② 「LUNCHMEETUP」 2024年度3回開催しTIPコミュニティの拡大・強化 ③ 2024年度1月末までにINDEST内で、入居者交流イベントを5回、支援者とスタートアップが交流するイベントを2回、開催した。イノベーションデザイン機構Slackは現在178名の関係者が登録している 	—	—
東京農工大学		○		<ul style="list-style-type: none"> ① GTIE主催による情報共有のための「Share-Room」（毎週昼休みオンライン開催、1時間）への参加 ② GTIEプラットフォームにて整備されているスタートアップ向け交流・支援設備の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2022年度、「Share-Room」計47回参加済。 	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップや支援者の交流する場

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
芝浦工業大学		○		① ペイエリア・オープンイノベーションセンター (BOiCE)	—	—	リンク
順天堂大学		○		① オープンイノベーションの源泉となるネットワーキングイベント「Innovative Ideation HUB」の月1回開催 (R5.11月～継続中)	① スタートアップ創出に向けたネットワーキングから共同研究に発展したケースあり。	① 異分野も交えたネットワークの広がりが作られつつある。また、新拠点におけるオープンイノベーションの気風醸成を図ることが出来ている	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップ関連イベントの開催状況

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
慶應義塾大学	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 慶應医学部主催 健康医療ベンチャー大賞（ビジネスコンテスト） ② KEIO TECHNO-MALL 2024での起業志望学生によるビジネスコンテスト（KLL-ONE） ③ 躬行実践アントレサロン（起業を志す学生・教職員・外部メンターなどの交流の機会） ④ KSIPイベント（インキュベーションプログラム採択チーム同士や支援者との交流の機会） ⑤ KSIPラーニング会（KSIPコミュニティに参画する起業家や支援者に対する勉強会） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2024/12/15開催。参加者 総計約230名、応募115チーム（内、決勝進出7チーム）、後援4団体、協賛企業9団体、寄附・協賛金約900万円 ② 2024/12/13開催 ③ #5（2024/4/19開催） #6（2024/8/2開催） #7（2024/10/28開催） ④ KSIPイベント（2024/6/16開催） ⑤ KSIPラーニング会：7回開催（10/31, 11/7, 11/21, 12/5, 1/16, 1/30, 2/3に開催） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 2023年度優勝した株式会社デジリハは、コンテスト参加時点で2億円超の資金調達に至り、開発推進や人材強化を推進中。入賞の東京核酸合成株式会社は2024年1月、第三者割当増資による資金調達を実施、またNEDOディーブテック・スタートアップ支援事業STSフェーズに採択され、計1.5億を調達した。特に東京核酸合成は入賞を機に、本学スタートアップ部門との間で相補的な情報交換が活性化された。 ② KEIO TECHNO-MALL 2024では出展者と来場者との面談の機会が設けられたと共に、連携相談窓口を通じて企業と研究者とのマッチングがなされた。KLL-ONEでは最優秀賞1組、優秀賞2組が選出された。 ③ 参加者に対するアントレプレナーシップの醸成、参加者や講師とのネットワーキングが進んだ。 ④ 起業準備を進めるチームと支援者とのマッチングおよび支援者同士の交流が進んだ。 ⑤ 起業化や支援者に対する起業に関する知識やノウハウが共有されている 	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップ関連イベントの開催状況

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考 URL
	①	②	③				
茨城大学	○	○	○	① GTIEつくば拠点の技術シーズを活用するスタートアップの創出に向けたサイエンスアイデアソン ② GTIEつくば拠点の技術シーズを活用するスタートアップの創出に向けたサイエンスアイデアソン in 量子科学技術研究開発機構	① 118人が参加 ② 90人が参加	① GTIE事業への国研のまきこみや、つくば拠点の機運醸成を狙ったものであるが、十分な機運醸成を得られた手ごたえがある（このイベントを契機に、つくば・茨城県内の国研の産連関係者の情報交換会が発足）。拠点内における数年後のスタートアップ創出数と資金調達額に繋がると思われる	リンク リンク
千葉大学	○	○	○	① 千葉大学 IMOスタートアップ支援事業Demo Day（成果報告会）supported by ちばぎん～学生スタートアップ支援事業・なのはなコンペ2024～ ② 千葉から世界へスタートアップ・グローバル展開プログラム2024 スタートアップ・グローバル展開セミナー ③ 千葉から世界へスタートアップ・グローバル展開プログラム2024 プートキャンプ ④ Family Business Network主催「Chiba Social Business Sympothium」 ⑤ GAPファンドを活用した大学発スタートアップ設立勉強会 ⑥ 千葉県信用保証協会主催 女性のための創業セミナー ⑦ 千葉市アクセラレーションプログラムC-CAP課題解決講座 第2回 ⑧ Research Studio mini workshop	① 千葉銀行共催、50名弱参加予定 ② 99名参加 ③ 7社、のべ25名参加 ④ 各国約40名参加、地域公的機関、地域民間企業 ⑤ 29名参加 ⑥ 20名参加	—	リンク

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：スタートアップ関連イベントの開催状況

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京科学大学		○		① 「BBセミナー」 ② 「イノベーションアイデアコンテスト」 ③ 「起業マインドセミナー」 ④ 「現役臨床医の起業から学ぶ」 ⑤ 東工大（2024年10月以降は東京科学大学）が運営するINDESTにて起業家/起業を目指す大学教員/学生向けに勉強会やアントレプレナー懇談会等を開催	② 全19件エントリー ③ 27名参加 ④ 54名参加 ⑤ 2024年度1月末までにINDEST内で、勉強会を5回のほか、アントレプレナー懇談会を実施	—	リンク
横浜国立大学		○	○	① 「横浜・大学対抗ビジネスプランコンテスト」	① 70名（現地・オンライン含）		リンク
順天堂大学		○	○	① aif(AIインキュベーションファーム) が支援しているスタートアップ及びPartners会員を対象にしたDEMO DAY（各種取組やJASTAR成果報告会等の実施） ② 第2期JASTAR採択スタートアップ企業発表イベント（6月26日） ③ デジタルヘルス、AI医療におけるデータ利活用及び知的財産権に関するセミナー開催（6月18日） ④ 学外を巻き込んだエコシステムの構築「地域との共創」シンポジウム開催（8月7日、11月1日） ⑤ 大学発スタートアップ創出支援プロジェクト「研究成果報告・DemoDay」（10月7日） ⑥ デジタルヘルススタートアップDemoDay（1月29日） ⑦ 「学外を巻き込んだAI活用の取組」シンポジウムの開催（2月17日予定） ⑧ JASTARプロジェクト第2期 FINAL DEMO DAY」（3月18日予定）	—	数多くのイベントを開催したことで、大学発スタートアップの創出支援に向けた支援の広がりや他業種とのネットワークを構築し、新たな連携が図れるようになってきた。	リンク リンク リンク
東京理科大学		○		① ピッチイベント「qcp Startup Pitch 2024」を開催。（2024/9/25）	① ・応募企業数：42社 ・ファイナリスト登壇：8社 ・スポンサー：10社	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京大学	○	○		① Today To Texas プロジェクト 東京大学関連のスタートアップや学生プロジェクトを、South by Southwest (SXSW) の展示会に派遣、出展	① R2~R6で計239名の応募があった。	—	リンク
慶應義塾大学	○		○	① AMEDの橋渡し研究プログラム（大学発医療系スタートアップ支援プログラム）における医療系スタートアップ支援拠点の活動において、以下の海外エコシステムプレイヤーとの連携を開始。 ・Stanford SPARKのトランスレーショナルリサーチ活動モデルの慶應拠点への導入 ・iCOMN with Biolabsとの連携による「医療系特化国際起業家育成プログラム」の活用 ・米AIFAM Asset Management提供の起業家教育のオンデマンドビデオ講義の活用	① Stanford SPARK - 慶應拠点メンバーのオンサイトビジットによる意見交換を実施（2024年12月、2025年1月）	① SPARKからの慶應モデル案の提案を受け実装に向けた協議を行っていく予定	リンク リンク リンク
早稲田大学	○		○	① 2020年12月にシリコンバレーVCのsozo venturesと協力した学内研究者等向け資本政策に関するワークショップを実施。 ② 2022年10月のY CombinatorとSilicon Valley Japan Platformが連携したトークイベントに副総長は登壇し、意見交換を行った。 ③ 起業家教育について全米第一と称されるBabson Collegeと連携協力、連携した取組や共同研究を実施。同大学を中心とした世界的大学連携の枠組み（Babson Collaborative）に日本の大学から唯一参画。 ④ メルボルン大学ビジネススクールと連携した現地起業研修（海外武者修行プログラム）を2025年2月に実施し、多くの起業意欲溢れる学生を派遣。	—	—	—

APPENDIX-大学での取組

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
茨城大学	○	○		① CIC東京内に東京サテライトオフィスを設置し、各種イベントへの参加を通して連携を模索	① フィンランドのアクセラレーターとアントレプレナーシップについて意見交換	① 今後の連携の可能性について、継続的に議論を開始することで一致	—
お茶の水女子大学	○		○	① 日立エナジー（パワーグリッド系の国際企業）と女性エンジニア向けのワークショップを10月31日に開催し、学生4名が参加した。学生女性技術者に対して、エンジニアリングの多様な現場を紹介することを目的としている。	① スタートアップと直接結びつくか現時点では不明。同社は世界中に拠点を持つ企業であり、今後も人材交流面で連携を深めたいと考えている。	—	—
千葉大学	○			① Research Studio プログラムにてメンター・スタッフとしてUCSDへ渡航し支援、UCSD内インキュベータInstitute for the Global Entrepreneur (IGE)と情報交流 ② ドイツ イェーナ大学のスタートアップ支援担当者と情報交流 ③ カナダ・メトロポリタン大学併設インキュベータDMZ、ジェトロ千葉、千葉市、千葉大学の情報交流を千葉大学にて実施	① 筑波大学を主幹として千葉大学、慶応義塾大学、大阪大学、岡山大学、九州大学が連携して実施。千葉大学からはメンター1名・スタッフ1名が参加 ② 千葉大学：3名、ジェトロ千葉：1名、イェーナ大学（フリードリヒ・シラー大学イェーナ）：1名、ブラウンホーファー研究機構IMW：1名	・UCSDのスタッフ・メンターと継続して情報交流を継続。支援したチームから起業。 ・次年度の北米訪問とDMZを招聘した千葉市プログラムの実施につながる。	リンク リンク リンク リンク
筑波大学	○			① 「University of TSUKUBA Night 2024」を、米国ボストン Cambridge Innovation Center (CIC)で開催（2024年9月5日開催）	① 「University of TSUKUBA Night 2024」に465名が参加	—	リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
電気通信大学	○			① オーティファイ株式会社近澤良CEOを招いたベンチャービジネス特論の講義	大学院生54名が参加	大学院生の起業家マインド醸成	—
東京科学大学	○	○		① スタートアップイベント「Techcracker Lab」 ② ICL – National Heart and Lung Instituteより、英国初バイオベンチャーに従事している人材を特任教授として招聘した ③ ETH Zurich (Chair of Entrepreneurship)にイノベーションデザイン機構長が客員研究者として着任。 ④ Burgundy School of Business (フランスのビジネススクール) にイノベーションデザイン機構長が連携教授として着任。 ⑤ Burgundy School of Business のDBAコースにおいてイノベーションデザイン機構長がワークショップを実施した。 ⑥ GTIE主幹機関として、アントレプレナーシップ教育（海外研修）を企画し、GTIE内大学へ向け公募し、審査の上シリコンバレーへ派遣した。 ⑦ MIT System Design and Management にイノベーションデザイン機構長が客員研究者として着任。 ⑧ Burgundy School of Business のDBAコースにおいてイノベーションデザイン機構長がワークショップを実施予定。 ⑨ GTIE主幹機関として、アントレプレナーシップ教育（海外研修）を企画し、GTIE内大学へ向け公募し、審査の上シリコンバレーへ派遣予定（3月）。 ⑩ GTIE主幹機関として、アメリカUCSDにて医療系研究者向け海外展開を見据えた研究開発・事業化のための研修を企画し、GTIE内のGAPファンド採択者から希望者を派遣予定（2月）	① 709名参加登録 ④ 15名 ⑤ 4名 ⑧ 10名 ⑨ 6名 ⑩ 1チーム （研究者1名、EIR1名）	—	—

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東京農工大学	○			<ul style="list-style-type: none"> ① 理系ビジョナリープログラム(日本における科学技術のイノベーション創出の活性化と研究成果に基づく価値創造や国内外における企業の事業開発を推進・継続できるイノベーションリーダーの育成を目的としたプログラム。) 連携先：SVAイノベーション社(米国・旧SRI International)等 ② シュタインバイス大学日本研修(シュタインバイス大学大学院生とのグループワーク研修。企業からの課題についてグループワークを行い将来遭遇するグローバルな社会におけるチームワークを模擬体験する。) ③ 卓越大学院プログラム ④ シュタインバイス大学日本研修(3月予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加学生計：209名 ② 参加学生計：250 ③ 参加17名 	—	—
神奈川県立保健福祉大学	○			<ul style="list-style-type: none"> ① カナダのインキュベーター(起業支援団体)である「DMZ」と、日本でDMZと連携する「Landing Pad Tokyo powered by DMZ」(LPT)との意見交換 ② 「Healthcare Innovation and Entrepreneurship」をテーマに、タイのコンケン大学と合同カンファレンスを開催。 ③ 病院経営プログラムの受講者受入れ(タイ・マヒドン大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 13名参加 ② 51名参加 ③ 30名参加 	—	リンク リンク

参画メンバーの主な取組（大学の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ① 世界とシームレスに繋がる
- ② スタートアップの成長を支援
- ③ エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
芝浦工業大学	○			① 「GTIコンソーシアムシンポジウム2020」を開催 ② 「S-SPIRE国際シンポジウム」参加者数：91名	① 計1,686名 (R2~R6) ② 91名	—	リンク リンク
順天堂大学	○			① 延世大学におけるデータサイエンスの現状と今後の展望	① 40名参加	① 延世大学のデータサイエンスとの連携について確認	リンク
中央大学	○			① グローバルインターンシップ（インド）新規実施 ② Plug & Play との連携（出講、新規海外PJ組成）	10名参加	—	リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）

- 東京コンソーシアムでは、VCやアクセラレーター、大企業・中堅企業が連携し、エコシステムを形成
- スタートアップの成長とグローバル展開を推進してきた

主な取組企業

特徴的な取組

世界とシームレスに繋がる

- 東急（株）
- 三井不動産（株）
- 三菱地所（株）
- 森ビル（株） 等

- 脱炭素に特化した海外VCファンドへのLP出資
「Breakthrough Energy」（米国）、「Just Climate」（英国）のファンドへの出資（三井不動産）
- シリコンバレーを拠点とするAlchemist Accelerator LLCとパートナーシップを結び、日本でのアクセラレータープログラム「Alchemist Japan」をGlobal Business Hub Tokyoにて開催、支援（三菱地所）

スタートアップの成長を支援

- 東京商工会議所
- 東急（株）
- 東急不動産（株）
- 三井不動産（株）
- 三菱地所（株）
- 森ビル（株） 等

- スタートアップ × 中堅・中小企業 マッチングピッチ（スタートアップと中堅・中小企業とのマッチングイベント）を開催。約600名が参加し、事業共創の可能性を広げた（東京商工会議所）
- 渋谷サクラステージにてディープテック領域のスタートアップ育成・支援を目的としたイノベーション創出の場「SAKURA Deeptech Accelerator」を2025年1月に開設（東急不動産）

エコシステム形成の土台を作る

- 日本経済団体連合会
- 東急（株）
- 東急不動産（株）
- 三井不動産（株）
- 三菱地所（株）
- 森ビル（株） 等

- 会員企業にてスタートアップ関連のイベント多数を実施し、多くのスタートアップ・エコシステムプレイヤー同士を接続（三井不動産）
例：LINK-J MeetUP、Miyaman's Venture talk、VCと語ろう、Lifescience Startup career fair 2024 など

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：民間組織の主な活動実績

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			直近5年間の主な取組の概要	参考URL
	①	②	③		
日本経済団体連合会	○	○	○	① 「スタートアップ躍進ビジョン～10X10Xを目指して」を公表（2022.3.15） ② 「日本を世界有数のスタートアップ集積地に」を柱の一つに掲げ、実現に向けた各種政策を提言 ③ 「経団連Startup Slack」の立ち上げ ④ 「スタートアップフレンドリースコアリング」の第2回調査を実施	—
（株）慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）		○	○	① 慶應義塾大学「健康医療ベンチャー大賞」において、審査委員長、1次・2次メンター、協賛企業として協力 ② 慶應義塾大学大学院理工学研究科のアントレプレナー育成講座において、寄付及び講師、メンターとして協力 ③ エコシステムへの資金循環とハンズオン支援を実施 ④ デジタル・テクノロジー領域と医療健康領域のディープテックスタートアップ8社へ新規投資実行 ⑤ その他、政府・自治体、スタートアップエコシステム等主催のスタートアップ支援イベントへ審査委員や講師として協力	—
東急（株）	○	○	○	① 東急アライアンスプラットフォーム（TAP）：Demo Day（TAPの応募スタートアップと東急グループの事業共創ピッチを実施） ② グローバルスタートアップ育成機関「シブヤスタートアップス株式会社」を通じた、海外スタートアップ企業との実証プロジェクトの実施 ③ クリエイティブ・コンテンツ企業やスタートアップ、クリエイターが集積する渋谷において共創施設「SHIBUYA QWS」、「Shibuya Open Innovation Lab（SOIL）」などを運営	リンク リンク リンク
東急不動産（株）	○	○	○	① MITのILPプログラム（産官学連携）との連携により、ディープテック領域のスタートアップ育成・支援を目的とするイノベーション創出の場「（仮称）Shibuya Deep-tech Accelerator」を開設（2025年1月開設）	リンク
（株）東京大学エッジキャピタルパートナーズ（UTECH）	○	○	○	① 2021年5月設立のUTECH5号（ファンドサイズ304.1億円）から、優れたサイエンス/テクノロジーに立脚するスタートアップ38社に出資し、シード/アーリーステージから一貫したハンズオン支援を実施 ② 東京都によるスタートアップ支援プログラムTOKYO SUTEAMを活用し、国内スタートアップの海外展開（資金調達・事業開発・人材採用等）・海外スタートアップの日本展開を双方向で支援	—

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：民間組織の主な活動実績

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			直近5年間の主な取組の概要	参考URL
	①	②	③		
三井不動産（株）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 産学の有志と設立した一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン（LINK-J）においてライフサイエンス分野での新産業創造を目指したイベントを多数開催 ② ライフサイエンス領域の国内外のアカデミアやベンチャーキャピタルを集積、グローバルな連携の促進を目的としたライフサイエンス拠点「GLOBAL LIFESCIENCE HUB」の運営、またライフサイエンスビルシリーズ等にてスタートアップをはじめとする各プレイヤーが利用できる場を提供 ③ ライフサイエンス分野に続き、産学の有志と設立した一般社団法人クロスユーが23年4月に本格稼働を開始し、宇宙関連領域での新産業創造を目指したイベントを多数開催 ④ スタートアップを多数含む宇宙ビジネスプレイヤーのビジネス展示会などを行うNIHONBASHI SPACE WEEKを開催 ⑤ 大人起業家のための事業構想から実際の企業までの伴走支援プログラムである「Swing-By」の実施 ⑥ 複業したい人材と優秀な人材を求めるスタートアップをマッチングするサービス「おためし複業」の支援を実施 	リンク リンク リンク リンク
三菱地所（株）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① 大企業の新規事業担当者を中心とした組織「TMIP（Tokyo Innovation Marunouchi Platform）」にて、大企業とスタートアップのオープンイノベーションを促進 ② 「Inspired. Lab」「FINOLAB」等スタートアップのビジネス支援を行う施設の運営 ③ CVCであるBricks Fund Tokyoを活用したスタートアップ投資および新産業の創出 ④ 起業家支援を行う「有楽町「SAAI Wonder Working Community」」の運営 ⑤ xLINK丸の内永楽ビル内にスタートアップスタジオの開設 	リンク リンク リンク リンク リンク
森ビル（株）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① スタートアップ等が入居する「CIC Tokyo」、インキュベーションセンター「ARCH」の運営および2施設の共創連携 ② スタートアップへのリスクマネーの担い手となるVC・CVCが集積する「Tokyo Venture Capital Hub」の開業 ③ スタートアップの海外展開を支援する「Japan Innovation Campus」の開業（経済産業省事業） ④ 創業・成長期スタートアップ/起業家を対象にした日本最大級のピッチイベント「ROCKET PITCH」の開催 ⑤ 次世代の情報発信拠点「Tokyo NODE」の開設およびイベント開催 	—

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：地域で活躍するVC、アクセラレーターの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、URL M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考
	①	②	③				
東急（株）		○	○	① 東急アライアンスプラットフォーム（TAP）	① 東急グループの事業者が持つ様々なアセットやリアル顧客接点等を活用し、用途開発支援と社会実装支援を行うスタートアップ支援プログラム。企業からの応募の通年受付およびDemoDayの実施	累計応募数：1062件 126件のテストマーケティングや協業、44件の事業化や本格導入	リンク
東急不動産（株）	○	○	○	① Plug and Play shibuya powered by 東急不動産 ② 渋谷スタートアップス ③ ジェネシア・ベンチャーズ 日本及び東南アジアにおいてプレシード/シード期のスタートアップへ投資と経営支援を行う、独立系のベンチャーキャピタル。当社からの出資を前提としないアクセラレーションプログラム「Entrepreneurs Academy」を渋谷区にて実施するなど、社会を形成するすべてのステークホルダーとともに、持続可能かつ大きな産業を生み出すプラットフォームの構築に取り組む	② 新しいアイデア・技術を持つ多様なスタートアップや高度人材を渋谷に集め、世界的成功を収めるスタートアップを生むことで、国際的なスタートアップ・コミュニティの誕生を実現するために23年より本格稼働	—	リンク リンク
三井不動産（株）		○	○	① 三井不動産：日本橋室町三井タワーの「GLOBAL LIFESCIENCE HUB」にて、ライフサイエンス領域のVCが集積し、協業するための施設として運営。	① ライフサイエンス関連VC数：19社（2023年3月時点）	① クオリプスが2023年6月にIPO NVCC等が出資。上場時の時価総額は99億（終値）	リンク リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：地域で活躍するVC、アクセラレーターの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M & A、エコシステム形成に貢献等）	参考 URL
	①	②	③				
三井不動産（株）		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ② BRAVE（2016年から毎年開催しているディープテックに特化した事業化支援プログラム） ③ X DOJO（シード期、プレ・シード期のスタートアップが対象。対象領域はXR、ブロックチェーン、ヘルスケア、ロボティクス、AI） ④ その他VCによるハンズオン支援や独自のスタートアップ支援プログラムを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ② これまで120チーム以上の成長を支援し、BRAVE卒業生による資金調達は400億円を超え、BRAVEを契機とした創業も数多く生まれている。 ③ 2023年度は2023冬、2023夏を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ② 2016年から毎年開催しているBRAVEは、ディープテックに特化した事業化支援プログラム。これまでに120チーム以上の成長を支援し、BRAVE卒業生による資金調達は400億円を超え、BRAVEを契機とした創業も数多く生まれている。 ③ 2021年からX-DOJOを開始。年間10社程度を採択・支援。 ④ （前身のプログラムでは計37社の支援実績もある。） 	リンク
三菱地所（株）		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① Bricks Fund Tokyo 「新たなライフスタイル」「既存産業のパラダイムシフト」「サステナビリティ」の3つの投資テーマにおいて、これまで国内外の有望スタートアップに対し新規投資累計22件、追加投資累計4件を実行。投資先に対しては三菱地所グループの経営基盤を活かした経営支援や協業、事業共創を積極的に推進するなど、成長と価値創造をサポート。 ② 大企業の新規事業担当者を中心とした組織「TMIP（Tokyo Innovation Marunouchi Platform）」にて、大企業とスタートアップのオープンイノベーションを促進 －TMIP×Spready共催新規事業開発関連イベント開催 －TMIP× ReGACY Innovation Group 共催グローバルカンファレンス関連イベント開催 ③ 株式会社プライムパートナーズが設立したスタートアップスタジオ併設型のシードファンド「Co-Founder Fund投資事業有限責任組合」へアンカー投資家として参画 	<ul style="list-style-type: none"> ③ TMIP×Spreadyイベント：83名が申込 TMIP× ReGACY イベント：45名が申込 	—	リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：地域で活躍するVC、アクセラレーターの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M & A、エコシステム形成に貢献等）	参考 URL
	①	②	③				
森ビル（株）	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ① CIC Tokyo 国内最大級のスタートアップ向けコワーキング。約250社を超えるスタートアップおよびスタートアップ支援企業等が入居 ② KaleidoWorks 多くのベンチャーキャピタルが集積するラウンジ付きワークプレイス。ベンチャーキャピタルによるスタートアップ企業へのハンズオンによる事業拡大の支援や起業家やキャピタル系人材の育成プログラムなどが開催される ③ 始動Next Innovator（アクセラレーター、人材育成） WiL、政府機関や企業のアクセラレータープログラムの運営を支援する様々なプレーヤーが拠点を構え活動を行う ④ Incubate Camp 本気で資金調達を目指すシード/アーリーステージ起業家のための、起業家・投資家合同経営合宿 ⑤ B Dash Ventures インターネット業界の第一線で活躍する経営者や著名人が集結する日本最大規模の招待制カンファレンス「B Dash CAMP」 	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間200回以上のイベントを開催。シグネチャーイベントのRocket Pitchでは、80名超の起業家が1000名を超えるオーディエンスに向けビジネスピッチを実施 ② ベンチャーキャピタリスト研修をはじめ、多数のイベントを開催 ③ 100名を超える起業家予備軍が半年間の研修期間を経て、事業アイデアをブラッシュアップ。選抜された20名がシリコンバレーにわたり、さらなる研鑽を行った ④ スタートアップとキャピタリストを対象にした起業支援環境や事業トレンドの変化を踏まえ、シード資金提供に止まらず、数千万～十億円単位の資金提供を含めた『起業家/投資家合同経営合宿』 ⑤ トークセッション、ピッチ大会、ネットワーキングなどからなるカンファレンス 	—	リンク リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップを支援する地域の大企業・中堅企業の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東京商工会議所		○		① スタートアップ × 中堅・中小企業 マッチングピッチ（スタートアップと中堅・中小企業とのマッチングイベント） ② イノベーション交流会 ③ 東商イノベーションスクール ④ 東商アイデアピッチ	①イベント参加者数：約600名	—	—
東急（株）		○		① SHIBUYA QWS ※子会社である渋谷スクランブルスクエア株式会社が運営	①日本のスタートアップエコシステムにおいて課題とされているシード支援・Exitのうち主にシードの支援をするために、大学をはじめとする様々な領域のパートナーと連携し、新たな社会価値の創出を加速させるオリジナルのプログラムやイベント、コミュニティの醸成の取り組み。	—	リンク
東急不動産（株）	○	○	○	① SAKURA Deeptech Accelerator 渋谷サクラステージにてディープテック領域のスタートアップ育成・支援を目的としたイノベーション創出の場を2025年1月に開設 ② MIT ILPとのスタートアップ関連イベント 「渋谷での産官学連携による新たなイノベーションへの挑戦」～世界を繋ぐスタートアップ共創の実現へ～MIT ILPとの共催イベントとしてSHIBUYA QWSで開催（2023/10/6 MITILP×東急不動産）	①MITILPプログラム連携にて国内外のVC・Acceleratorと連携し、開発を行うディープテック領域のスタートアップ企業へのアクセラレーションプログラムの提供	①パートナー企業とのグローバルで高度な産学連携の実現	リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップを支援する地域の大企業・中堅企業の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達、M&A、エコシステム形成に貢献等）	参考 URL
	①	②	③				
三井不動産（株）	○	○	○	<p>① 三井不動産</p> <ul style="list-style-type: none">・大人起業家のための事業構想から実際の企業までの伴走支援プログラムである「Swing-By」の実施。・複業したい人材と優秀な人材を求めるスタートアップをマッチングするサービス「おためし複業」の支援を実施。・日本橋～八重洲エリアでのスタートアップエコシステム構想（スタートアップの成長と大企業のイノベーションを同時に実現するエコシステムを創る）の推進・Techstars Tokyo Kick-offイベントの開催。・ライフサイエンスビルシリーズの取組 <p>スタートアップをはじめとする各プレイヤーが利用できる場を提供。</p> <p>② 一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム（FIRM）</p> <p>FIRM ベンチャー創設支援フォーラム：起業に関心のあるアカデミア研究者・起業家向けに、ニーズに基づくトレンド、技術情報等を提供。</p> <p>FIRM's 起業塾：ベンチャー企業の立上を考える研究者向けに、各テーマの専門家から起業に資するノウハウを提供。希望者には、講演者との1-on-1を実施。</p> <p>③ LINK-J（理事長：慶応義塾大学岡野先生）</p> <p>ライフサイエンス領域におけるエコシステム形成についてスタートアップ、大企業、官公庁、業界団体などのコミュニティを形成、スタートアップ支援・産学連携支援を実施。またスタートアップ支援に関しては、東京都のスタートアップ支援施策である「Blockbuster TOKYO」や多様な主体によるスタートアップ支援展開事業「TOKYO SUTEAM」の協定事業者としても活動</p>	<p>① swing by 16名（プロジェクト数）加入。</p> <ul style="list-style-type: none">・おためし複業 <p>スタートアップでの複業希望人材59名登録→複業開始数12件</p> <ul style="list-style-type: none">・Techstars Tokyo Kick-offにはオフライン300人以上、アーカイブ300人以上の方にご視聴いただき、多くのスタートアップ、スタートアップ関係者に24年度以降開始するアクセラレーションプログラムへの認知・興味喚起を行った。・ライフサイエンスビルシリーズに190社以上のライフサイエンスエコシステム関係者が入居（上記の内 スタートアップ企業は110社程度） <p>② LINK-Jにおいて、スタートアップ、大企業、官公庁、業界団体などの実績、コミュニティ形成、スタートアップ支援、産学連携支援を実施。2024年2月時点、会員数は800をこえる。また、企業の経験者、様々な領域に卓越した知見や人脈を有する有識者などがLINK-Jサポーターに就任し、活動をサポートしている。</p>	リンク リンク リンク リンク リンク	

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップを支援する地域の大企業・中堅企業の取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達 達成、M&A、 エコシステム形成に貢献 等）	参考 URL
	①	②	③				
三菱地所 （株）		○		① 大企業の新規事業担当者を中心とした組織「TMIP（Tokyo Innovation Marunouchi Platform）」にて、大企業とスタートアップのオープンイノベーションを促進 -TMIP×先端技術共創機構(ATAC)共催大学発SUピッチイベント開催 -TMIP、東京都が運営する「多様な主体によるスタートアップ支援展開事業(TOKYO SUTEAM)」の重点分野協定事業者として採択 -Marunouchi Crossing 2024（オープンイノベーションイベント開催） -東京都の「Be Smart Tokyo」事業内でのLiberawareとの実証実験の実施 ② スタートアップの取組を紹介するオウンドメディア「xTECH web」の運営 ③ 有楽町「SAAI Wonder Working Community」の運営による起業家支援 ④ HONGO AI開催（日本最大級AIスタートアップピッチコンテスト） ⑤ ClimateTech領域における国内初のイノベーション拠点O Clubの開設に伴うClimateTechをテーマとしたイベントを複数回開催	① ・TMIP会員数 300社以上に成長 ・TMIPイベント20回で参加者数 延べ約1000人	-	リンク リンク リンク リンク
森ビル（株）		○		① テレビ東京『巨大企業の日本改革3.0「生きづらいです2023」Live Pitch』 ② 虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター「ARCH」年間280回以上のセミナー、イベントを開催。約120社の国内大企業が新規事業の創出に取り組む ③ Tokyo Venture Capital Hub 独立系VC、CVC、大学VCなど70社、JVCAが入居するラウンジ 併設型オフィス。JVCAのイベントをはじめ、各社が支援するスタートアップ企業の支援等を行う ④ メディア連携 テレビ東京やJ-WAVE等のメディアと連携して番組放映やイベントを行うことで、オープンイノベーションの促進・事例発信を実施	-	-	リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップや支援者等の交流する施設・場

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			施設名	参考URL
	①	②	③		
日本経済団体 連合会		○	○	① Keidanren Innovation Crossing (KIX) ※2024年度も引き続き定期開催（下記CIC Tokyo開催分を含め、計6回予定、すべてリアル開催）	リンク
東急（株）		○	○	① Shibuya Open Innovation Lab (SOIL) ② SHIBUYA QWS	リンク リンク
東急不動産 （株）		○	○	① 東京開業ワンストップセンター ② Plug and Play shibuya powered by東急不動産 ③ GUILD青山・渋谷・道玄坂・公園通り・神南坂・神南一丁目 ④ NEWTRAL INNOVATION BASE	-
三井不動産 （株）		○	○	① 日本橋ライフサイエンスハブ ② 日本橋ライフサイエンスビルシリーズ ③ GLOBAL LIFESCIENCE HUB ④ X-NIHONBASHI TOWER ⑤ X-NIHONBASHI BASE ⑥ THE E.A.S.T 日本橋富沢町 ⑦ THE E.A.S.T 日本橋一丁目 ⑧ 日本橋三井ホール ⑨ 室町三井ホール&カンファレンス ⑩ イノベーションフィールド八重洲	リンク リンク リンク リンク
三菱地所（株）		○	○	① EGG ② FINOLAB ③ Inspired. Lab ④ Global Business Hub Tokyo ⑤ TOKIWA BRIDGE ⑥ 3 x 3 Lab Future ⑦ SAAI Wonder Working Community ⑧ OClub（ClimateTech領域における国内初のイノベーション拠点）	リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップや支援者等の交流する施設・場

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			施設名	参考URL
	①	②	③		
森ビル（株）	○	○	○	① ARCH ② CIC Tokyo ③ Venture Café Tokyo ④ KaleidoWorks ⑤ 六本木アカデミーヒルズ ⑥ 虎ノ門ヒルズフォーラム ⑦ 第四次産業革命センター ⑧ 開業ワンストップセンター（赤坂） ⑨ 六本木アカデミーヒルズ、ARCH ⑩ 新虎CORE ⑪ 六本木ヒルズ	リンク リンク リンク リンク リンク リンク リンク

APPENDIX-民間での取組

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：スタートアップ関連イベントの開催状況

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			施設名	イベント名	参考URL
	①	②	③			
日本経済団体連合会	○	○	○	① CIC Tokyo	① Keidanren Innovation Crossing (KIX) × FUKUOKA Innovation Night（福岡県との共催）	リンク
東急（株）	○	○	○	① Shibuya Open Innovation Lab（SOIL）	① TAP 2023 DEMO DAY	リンク
三井不動産（株）	○	○	○	① 日本橋ライフサイエンスハブ ② 日本橋ライフサイエンスビルシリーズ ③ GLOBAL LIFESCIENCE HUB ④ X-NIHONBASHI TOWER ⑤ X-NIHONBASHI BASE ⑥ THE E.A.S.T 日本橋富沢町 ⑦ THE E.A.S.T 日本橋一丁目 ⑧ 日本橋三井ホール ⑨ 室町三井ホール&カンファレンス ⑩ イノベーションフィールド八重洲	① LINK-J、会員企業にてスタートアップ関連のイベント多数を実施 例：LINK-J MeetUP、Miyaman's Venture talk、VCと語ろう、Lifescience Startup career fair 2024 など ② NIHONBASHI SPACE WEEK2023をはじめ関連イベント・セミナーを多数開催 ③ THE E.A.S.T EVENT シリーズを複数回実施 ④ Techstars Tokyo Kick-offイベント開催	リンク リンク リンク リンク
三菱地所（株）	○	○	○	① EGG ② FINOLAB ③ Inspired. Lab ④ Global Business Hub Tokyo ⑤ 3 x 3 Lab Future ⑥ SAAI Wonder Working Community ⑦ O Club	・Morning Pitch ・Marunouchi Innovation Fes. ・FINSUM ほか	リンク リンク リンク
森ビル（株）	○	○	○	① 虎ノ門ヒルズフォーラム ② 六本木ヒルズ	① ・FUSE Vol.2 ・Innovation Leaders Summit ・Thursday Gathering ・Rocket Pitch ・Startup Ecosystem Summit ・Startup Career Fair ・Startup Aquarium ② J-WAVE INNOVATION WORLD FESTA	リンク リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
②スタートアップの成長を支援
③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 (開催内容、イベントタイトル等)	実施した結果 (イベント参加者数、プログラム参加者数等)	効果 (資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等)	参考URL
	①	②	③				
東急（株）	○	○	○	① シブヤスタートアップスの官民連携スタートアップ支援プログラム「UP by Shibuya Startup Support」参画企業で渋谷発ストリートアートデジタルマーケットプレイス「TOTEMO」を運営するとも株式会社とのコラボレーションによる渋谷での実証プロジェクトの第1弾として、渋谷駅・旧東急百貨店東横店解体工事現場の仮囲いにて、アートを本日から2月末まで公開	① シブヤスタートアップス参画企業との協業による事業支援に加え、工事中の渋谷におけるにぎわいの創出や、アートを活用した渋谷駅の景観美化へ寄与	—	リンク
三菱地所（株）	○	○	○	① Sozo Venturesと共催イベントの開催 ② 「無線給電」の米スタートアップPHION Technologies に出資 ③ シリコンバレーを拠点とするAlchemist Accelerator LLCとパートナーシップを結び、日本でのアクセラレータープログラム「Alchemist Japan」をGlobal Business Hub Tokyoにて開催、支援（9月～12月） ④ 12月19日に上記プログラムの「Demo Day」をGlobal Business Tokyoにて開催 ⑤ JSNCと半導体エコノミクスに関するイベントの開催	③ アクセラレータープログラムの参加者は9社（今後、全社が米国でのプログラムに参加） ④ Demo Dayの参加者は200名超 ⑤ 約80名のイベント申込	—	リンク リンク リンク リンク
三井不動産（株）	○	○	○	① Techstars Tokyoプログラム 東京ミッドタウン八重洲で開催。アメリカを中心にグローバルに展開するブレシード向けエクイティ付アクセラレーションプログラムTechstarsの日本初・アジア唯一のプログラム。2024年8月～11月までプログラムを実施し、11月12日にDEMODAYを開催 ② 脱炭素に特化した海外VCファンドへのLP出資 「Breakthrough Energy」（米国）、「Just Climate」（英国）のファンドへの出資 ③ LINK-Jと海外大学や団体とのイベント開催等の取り組み拡大 従来、海外系のイベントは、海外からの登壇者の来日に合わせて日本で開催するもの、オンラインで海外と日本を繋ぐものが多かった。それに加えて、LINK-J自らが、欧米での大規模展示会の開催に合わせて海外現地から情報を発信したり、海外会場での参加者同士の交流を目的とするイベントを開催した。国内外での主催や協力イベント数は32件であった <具体的イベント例>Science to Startup (S2S) Japan／BioLabsとの共同事業TIB CATAPULT/LINK-BioBAY TOKYOの開始／国内外VCを招待したイベント「LINK-J Conference」の開催	① 12社のスタートアップが採択され、DEMO DAYには約400名の国内外のVC、CVCほかスタートアップエコシステムプレイヤーが出席 ③ 海外で開催した「LINK-Jジャパンナイト」シリーズでは、多いものでは300を超える参加申込があった	① 複数社がVC等より資金調達を実施 ③ 「LINK-J」ジャパンナイト」シリーズでは、日本からの参加者、海外現地法人の日本人駐在員、現地外国人等の様々な参加者間の交流の機会を提供できた	リンク リンク リンク リンク リンク リンク リンク

参画メンバーの主な取組（民間の取組）：海外エコシステムプレイヤーとの取組

- ①世界とシームレスに繋がる
- ②スタートアップの成長を支援
- ③エコシステムを形成の土台をつくる

名称	拠点都市をグローバル水準に引き上げるための主要ポイントとの関連			取組内容 （開催内容、イベントタイトル等）	実施した結果 （イベント参加者数、プログラム参加者数等）	効果 （資金調達達成、M&A、エコシステム形成に貢献等）	参考URL
	①	②	③				
森ビル（株）	○	○	○	① Japan Innovation Campus	<p>①2023年11月の開業以来、利用する51社のスタートアップ（オフィスメンバー※14社、コワーキングメンバー※247社）の事業化とビジネス拡大を目指して、約10か月間で計70件以上に及ぶビッチイベントやショーケースイベントなどを開催。2024年6月に実施した第2期公募により、利用企業数は約100社へと拡大。</p> <p>また、2024年7月30日にはジェトロと両者の協力に関する基本協定を締結。日米のベンチャーキャピタル、スタートアップ支援組織、学術機関等からなるグローバルエコシステムの構築を目指し、当拠点をベースにコミュニティの拡大と入居企業へのビジネスサポートを実施。</p>	—	リンク